# 京城日報

九日夕刊
(朝夕刊併せて八頁)

## ○米商業委員會請願
### 鐵道官營其他に就いて

米國商業委員會は鐵道會社を代表し議會に對して排トラスト及び買占め規則を中止し國債發行を許可し何運賃率に從つて貸出を允許するか或は鐵道を官營にするか何れかの一方を採擇せん事を請願せり御委員會は政府が鐵道會社の發行せる社債に對し規則を制定せん事をも請願せり(華盛頓電報)

## ○獨塹壕強襲公報

獨逸公報に依れば獨軍はモーヴルの南方及び西南方の塹壕に強襲しバポーム、カンブレーの道路に迫れり斯くて敵はマルコインの北方陣地を占領し十基米突の戰線にて四基米突を侵入せり敵は退却と共に村落に火を放てり我軍が鹵獲せる砲は百四十八門捕虜九千名に達せり(倫敦電報)

## ○豆油禁輸問合

米國の豆油輸入禁止に就き大連商業會議所、三井支店より外務省其他に異相問合中なり尚大連に於ける豆油相場は影響を蒙り恐慌を來し居れり(大連特電)

## ○銀建問題と反響
(大連特電)

大連商業會議所決議の銀建存續問題正金出張所存續請願等は大なる反響を起さしむるものゝ如し

## ○鮮銀總裁著釜

美濃部鮮銀總裁は九日朝著釜直ちに東萊に赴き鳴門支店に投じたるが同夜釜山の鳴門にて挨拶の爲め當地重なる官民新聞記者を招待し午後十一時半發列車にて京城に向ふべし(釜山特電)

## ●出超減退
### 例年と反對の現象

歐洲戰亂後吾國の對外貿易は異常の發達を來し特に輸出貿易の增進が輸入貿易の增進よりも著大なる結果輸出超過額は漸次增大するの傾向を辿り本年度の輸出入總額は

△二十六億圓 輸出超過額六億圓に達せんとするの勢を示し之を戰前の吾が對外貿易狀態に比すれば隔世の感なくんば非ず然れども本年度の吾が對外貿易は上半期末頃の成績より推定したる當時の豫想に比すれば輸出入の總額に於ては大差なきも輸出超過に於ては多少の減少を來す傾無きに非ず蓋し上半期末に於ける輸出超過の想定額は七億圓以上と計上されしを以て也。斯く本年度の輸出超過額が上半期末の想定額に比し一億圓以上の減少を來さんとするは下半期に於ける輸出超過が案外少かりしに因ること勿論なるが由來帝國は

△上半期に於て は棉花の輸入多く下半期は之が輸入多少減少する爲め下半期に於ける輸入貿易は上半期に於ける輸入貿易よりも幾分減少するの傾向あり之に反し輸出貿易は下半期に於いて生絲の輸出旺盛を極め上半期は之が輸出少く衰ふるを以て輸出貿易は下半期に入りて增進するを例とし其結果上半期に於ては輸入超過なるも下半期に於ては輸出超過なることあり又は昨年度の如く上半期の輸出超過に比し下半期の輸出超過が著しく增加することあるを常とす然るに本年度に於ては

△輸出超過は 四五月の交最も多く下半期に於ては案外增進し居らず

▲輸出超過(單位千圓)

| | 大正六年度 | 大正五年度 |
|---|---|---|
| 一月 | 二九、八七七 | 五、九六九 |
| 二月 | 一八、七二三 | 一九、四九五 |
| 三月 | 四二、八九二 | 一七、五八六 |
| 四月 | 六八、一七七 | 一三、七〇三 |
| 五月 | 七一、五七七 | 一八、〇三七 |
| 六月 | 二九、四六六 | 一四、二八二 |
| 七月 | 六一、一七二 | 三一、一五五 |
| 八月 | 六四、九六六 | 四四、一九一 |
| 九月 | 五三、九〇四 | 四二、三三五 |
| 十月 | 四九、六八二 | 五〇、一三七 |
| 十一月 | 四八、四九九 | 五二、一〇四 |

而して下半期に於ける輸出超過の比較的少額なりしは輸出增加の勢ひの衰へたるに因るか輸入增進の勢ひの增加したるに因るか將又其他の原因に基くかは本年度及び昨年度に於ける各月の輸出入額を考せば以て一端を覗ふに足らん

△輸入貿易(單位千圓)

| | 大正六年度 | 大正五年度 |
|---|---|---|
| 一月 | 九八、九六一 | 五七、三七四 |
| 二月 | 九三、六三三 | 七四、五〇六 |
| 三月 | 一二五、三〇六 | 八六、九七七 |
| 四月 | 一三〇、八〇一 | 七七、二七七 |
| 五月 | 一四五、八九二 | 八八、〇九〇 |
| 六月 | 一一〇、一二四 | 八五、三三八 |
| 七月 | 一三八、九〇六 | 九三、七二一 |
| 八月 | 一三七、四七一 | 九七、二三一 |
| 九月 | 一五〇、一三一 | 一〇四、九八一 |
| 十月 | 一四〇、二四九 | 一一四、〇五四 |
| 十一月 | 一五五、七八三 | 一二二、四五六 |

右表に依りて之を觀れば大正五年度に於ては月に依り多少の增減はあれども秩序的に增進し居れるが本年度に於ては

△三月に一躍 し九月に再び躍し其期間は特に注意を引くべき差異なく發達の跡自ら不秩序たるの觀きなきにあらず。

▲輸入貿易(單位千圓)

| | 大正六年度 | 大正五年度 |
|---|---|---|
| 一月 | 六九、〇八四 | 五一、四〇五 |
| 二月 | 七四、九一〇 | 五五、〇一〇 |
| 三月 | 八二、四一三 | 六九、三九三 |
| 四月 | 六二、六二三 | 六三、五二四 |
| 五月 | 七四、三一五 | 七〇、〇六二 |
| 六月 | 八四、六五八 | 七一、〇四五 |
| 七月 | 七七、七三四 | 六二、五七二 |
| 八月 | 七二、五〇四 | 五三、〇四一 |
| 九月 | 一〇、二一七 | 六二、七五一 |
| 十月 | 九七、五六二 | 六三、九二〇 |
| 十一月 | 一〇七、二八四 | 六〇、三五二 |

右表に依るときは輸入貿易も大正五年度に於ては六月迄は月々增進し居れども六月以降は却て減少せるが本年度に於ては月に依りて多少の變動はあれども順次增進の勢ひを示し例年と

△反對の現象 を來せり斯く輸出入の兩者を比較して觀れば本年下半期に於ける輸出超過額が比較的少額なりしは十月及び十一月に於ける輸出額が比較的少額なりしと下半期に於ける輸入貿易が意外に增進を來したるに歸著するものゝ如し而して之が原因如何及び將來の對外貿易が如何なる傾向を辿るべきかに就ては後日に讓るべきも兎に角我が對外貿易上の輸出超過は既に減退の域に在らずやと見るは必ずしも不當に非ざるべし(東京)

## ●日本國防と鎭海灣
釜屋海軍少將談

七日午前七時四十分關釜連絡船にて下關に上陸九時五十分列車にて東上したる朝鮮總督府附武官海軍少將釜屋六郎氏は左の如く語れり

▼海軍の擴張 海軍擴張は當然の事にて只經費問題に歸著するのみ民間の事業勃興の爲め我我の仕事にも大なる影響を蒙り居るが素より民間の事業も獎勵せざる可らずされば期する所は何事も擧國一致にあらざれば國防の完は期し難し宜しく新聞杯に於て國民の士氣を發揮する事に[illegible]たし

▼航空隊新設 來る議會に提出せらるゝものは五百八十萬圓の新豫算なるかの如し聞けるか是は多分四箇年繼續事業にて大正七年度の支出は百五十八萬圓かと思ふ新に呉と佐世保に航空隊の新設あるならんが其の內容は詳[illegible]を欲せず我々の希望は多々あるも兎角議會にも否決さるゝ事あるを以て往々目的に反する事あり今回の戰爭にて國民一般は敵ながら獨逸の潜航艇に感服し居りされば海軍の擴張には何人も反對するものはなき筈なり

▼日本海防備 鎭海灣は必要なきかの如く往々世間に誤解するものあるが不明も甚だしきものなり日本の海軍が充分歐洲列國に對抗する丈けの設備が出來たる上は或は其必要なきやも知る可からざるも今日の日本海は未だ大なる警備を要するを以て常に根據せる鎭海灣の必要は當然の事なり吳工廠に於て建造中の三萬一千六百噸の戰艦長門の建造中止は何等意味なし只だ熟達せる職工の缺乏したる迄にて引續き[illegible]積みつゝあり(門司)

## ●船腹不足と咸北
### 各方面の受けし影響甚大なり

歐洲戰亂勃發以來海運界は空前の殷盛を呈し其結果船腹は非常の不足を告げ當業者は比較的貨客の閑散なる

△航路の船腹 を割て之より以上の有利なる方面に轉充するが如き事毎に打算的に決行するの傾向を呈するに至れり加之本年七月海運業者が從來運賃の倍額以上の値上を決行し之に亞で日本郵船株式會社に於ては從來神戶浦鹽間(長崎經由)航路に就航せしめつゝありし大型船立神丸及和歌浦丸の元山淸津間直通三週一回充の淸津寄港を廢止したるが爲め本道の如き他地方との交通貿易一に海運に俟たざるべからざる地方にありては其經濟界に及ぼせる打擊尠少ならざるものあり今貿易其他各方面に及ぼせる影響を左に略述せん

△對內地貿易 近來交通機關の整備及び產業の發展等に伴ひ貿易は年と共に漸次盛況を呈するに至れり今本道貿易港たる淸津及び城津港に於ける貿易の趨勢を通觀するに

△淸津港

| | |
|---|---|
| 大正三年 | 一、六四八、四〇二圓 |
| 大正四年 | 二、二七九、七三九 |
| 大正五年 | 三、〇二五、五一一 |

△城津港

| | |
|---|---|
| 大正三年 | 一、一三九、三四三 |
| 大正四年 | 一、〇七〇、九四三 |
| 大正五年 | 一、七四七、八六九 |

にして爾來地方の發展に從ひ逐々之が增加すべき自然の理數なりと云ふべし加之目下大豆の輸移出を控へたる矢先に於て前記立神丸及び和歌浦丸の大型急航船を失ひたるを以て之が輸移出上多大なる支障を生ずるは勿論各種取引の敏活を缺き諸物價の騰貴は僻陬なる本道に至る迄餘す所なく異口同音に其の不便を喚じ苦情を唱へ居れり現在に於ける當地方阪神間交通船は宮島丸、安平丸、第三安平丸の三隻あるも何れも陸軍御用船にして普通貨物の積載に制限あり其の他、朝鮮郵船株式會社の北鮮航路船四隻は皆小型船なると沿岸寄港地頻繁なるを以て急施事を辨する能はざるの嫌あり且貿易貨物の華客たる阪神地方に航路を延長せざるが故に自然貨物の停滯を招致し本道對內地貿易上に寒心に堪へざるものあるを以て船腹數の復舊に關し一考するは亦徒爾に非ざるべし

△間島貿易 間島には支那人四百三千人の外鮮人二十餘萬の在住あり地味膏腴にして禾穀豐饒我商權を擴張するに好箇の市場たるを以て支那商人と接近して之を各種方面に利用するは啻に圓滿なる取引を爲すに止らず日支親善の上に歡はしき現象なるを以て專念販路獲得に努力し本邦商人の信用を發揮せしめんとす而して貿易は吉林系を唯一の捷路と爲したるも近來交通機關の漸次整理と共に形勢忽ち一變して其系統は十中の八九は淸津となれり今淸津通過貿易の狀勢を窺ふに實に北年左の如き激增を示せり

| | |
|---|---|
| 大正四年 | 二六一、二三八圓 |
| 大正五年 | 四九五、八九四 |
| 大正六年(八月迄) | 六四二、一三四 |

△[illegible]貿易 [illegible]セツト港と交通の容易なる點上より古來より密接なる關係を有し且つ從來間島貿易に於ける吉林系の地地に該當せり然るに[illegible]の勃發は極東露領貿易上に大なる影響を來し「ポセツト」系は淸津及び[illegible]系に轉化するに至れり今淸津通過貿易の趨勢は前記間島貿易に及ばざるも如何なる狀勢に向ひつゝあるかは左記に依り推知するを得べし

| | |
|---|---|
| 大正四年 | 三三四、七六一圓 |
| 大正五年 | 四二六、二三五 |
| 大正六年(八月迄) | 四一六、七〇一 |

此の如く其增額著しからざるは敢て僥るべからざるを證するに足るべし今や淸會鐵道も全部開通を見たる以上之が連絡を取り運輸上の敏速及び完全を期する爲め間島在住邦商等に於ては會寧、龍井村間に手押式輕便鐵道を敷設すべく目下夫々調査準備を進行しつゝありて商業界は當に一段の活氣を呈しつゝあるの秋に際し上述の如く船腹の不足を生じ之が貿易上莫大なる支障を與ふるが如きは蓋し鐵道の效果を充分發揮する能はざるのみならず一面產業及經濟上に及ぼす影響實に甚大なるを以て之が缺陷を補塡救濟するは刻下急切の緊事なりと認められつゝあり

△物貨騰貴 物價騰貴は元より通貨の膨脹及び產物の需給の關係等に依り一般的又は特殊的に生ずるものあるべしと雖も本道は交通不便なるが上に尚且氣候寒冷なるを以て必しも之に基因せざるものあり由來本道は陸上の交通機關未だ完備せず一に海運に俟たざるべからざるの不便あり然るに穀物及び雜貨品に對する運賃の値上は遂に輸移入品の騰貴となり今本年十一月の物價を昨年の同期に比較するときは實に三割乃至五割以上の昂騰を示せり之が爲め從來米食者も俄然粟及び碎米等を代用するものゝ增加の傾向を呈せり、本年一月より九月迄に間島及び其他より輸移入したる粟二十七萬八千二百七十三圓碎米二萬五千百十六圓の巨額に達せり尚地方細民に於ては食料品の購入資金を調達するに苦しむ者なきにあらざるも管內住民は概して甚しき苦痛困難を感ぜざるものゝ如し然りと雖も物價の調節及び下層民救濟の第一

## ●土地所有權調査終了

臨時土地調査局に於ける主要事業たる土地所有權並に土地價格の査定に關する調査は目下殘存地に對し[illegible]三道に於る一部殘務を整理中なるが來る十二月中旬を以て最終の調査を終了する由

## ●調査局員激減

臨時土地調査局にては事業終了に伴ひ大正五年來其の免官を續行しつゝあるため大正四年より五年に亙る盛時には六千餘人の局員を包括しゐたるも目下約一千百名に減じ往年の六分の一に過ぎざるに至れり

## ●魚類試驗輸出

從來朝鮮の海產物にして支那及び南洋地方面に需要あるは千鰒、海參、貝柱等を主とし[illegible]は支那商人の手に依りて輸出されつゝあり其利益の大部分は[illegible]仲介者の手に壟斷さるゝ[illegible]總督府に於て開催されたる[illegible]技術官會議に於ける一問題と成り是非とも直輸出を爲すべき方法を講ぜられたりしが[illegible]今回總督府にては販路の爲め[illegible]を三井物產[illegible]に[illegible]て之が[illegible]資を爲さしむる[illegible]鹽鯖[illegible]明太、鹽石首魚、干[illegible]千斤、干鰒五百斤、鹽鯖各四千斤、鹽鯖三千五百斤、[illegible]八千斤を輸出せしむべく鹽石首魚、鹽鯖、鹽魚脂の四種は[illegible]同船に[illegible]附し目下荷造中なれば[illegible]發送すべく其仕向地は[illegible]海、[illegible]門、汕頭、廣東、九江、[illegible]州、福州、鎭江、漢口、[illegible]等なりと

## ●朝鮮製紙創立期

王子製紙會社の姉妹會社として創[illegible]は既に十月中[illegible]株主[illegible]且つ朝鮮[illegible]のため來[illegible]務も十二三日[illegible]來る二十五日[illegible]

## ●化學製藥會社設立

[illegible]吉氏外京仁の[illegible]京城南大門通り[illegible]株式會社を[illegible]今回朝鮮化學製藥[illegible]を設立し[illegible]化學藥品類を製造[illegible]總督府藥劑師試驗委員[illegible]を技術主任として[illegible]に著手する由

## ●[illegible]品評會

[illegible]

## ●結氷と黑鉛界

追々結氷期に入りしため朝鮮の黑鉛界は自然小閑なるが殊に城津地方に於ける濕式精煉は用水不便の爲め其の產出漸く減じ西鮮方面の乾式精煉も尙ほ寒氣に妨げられ產額漸減の傾向にあり此の狀態は明春三月の解氷期まで繼續すべしと

## ●在鮮會社調査

在鮮會社に對する朝鮮銀行の調査を聞くに株式會社百四十一、合資會社六十八、合名會社二十八計二百三十七にして拂込資本金の總額は二千八百二十一萬九千圓なり

## ●通行稅廢止と朝鮮

府は大正七年度より通行稅廢止を斷行するものゝ如きが朝鮮には該稅の施行なきため其の廢止は汽車、電車運賃等に何等の關係なし

## ●資金集散豫想
### 十二月の朝鮮財界

朝鮮銀行調査に係る十二月中に於ける資金集散概算は收納に於て地稅、酒稅收入五百零八萬三百圓、朝鮮事業公債拂込二十五萬二千五百圓、合資會社白山商會外三社拂込み九十三萬五千圓合計六百二十六萬七千圓にして一月以降の累計は三千零十二萬六千圓を示し之を前年同期に比すれば六百三十萬圓の收納增となり又散出は府債償還二萬四千圓府債及び[illegible]利子五萬五千

## ●退兵交代兵著發

八日午前釜山入港の御用船第三安平丸にて交代兵三百名著釜內六十二名は[illegible]行にて元山に百九十九名は[illegible]にて各地分隊に向け出發三十九名は晉州大邱に向ふ筈なり(釜山)

## ●馬匹改良に就て
### 內地馬と蒙古馬の交配種

在來の朝鮮馬は駄馬として或る程度迄の使用には支障なきも乘馬及び輓馬としての能力は最も劣等なるは世人周知の事實なるが近時道路の開發に伴ふ交通の頻繁と共に輓馬の需要增加せる一方二個師團增設の完備せる今日一朝有事の場合に際し朝鮮馬を以て之に充つる事は實際に於て物足らざる憾あるも從來朝鮮には完全なる牧場の設備なく一般識者間に於て之れが改良の急務なるを說く者多かりしが開く處に依れば總督府に於ては馬匹の改良は勿論朝鮮に適當する馬匹を得る目的を以て昨年現に江原道蘭谷面に牧場を設け蒙古馬四十餘頭を買ひ入れ內地馬のギドラン又はアングルアラープ種に屬する種子馬三頭を移入し右兩者の交配種を得べく計畫せる由なるが斯の如きは實に馬匹改良上最も策の得たるものと思はる尙慶北道內にも目下內地馬六百餘頭を移入し居れるが今回總督府に於ける種馬宜しきを得て日本馬匹を得るに至らば其利する處大なるものあるべし(慶北道技手談)

## ●大倉男歡迎會十五日

大倉男歡迎會は來る十五日午後六時半朝鮮ホテルに於て開催せらるゝ由參加希望者は至急朝鮮ホテル內大倉男歡迎會幹事に申込むべしと會費は金四圓當日持參の事

## ●美濃部總裁歸期

鮮銀總裁美濃部俊吉氏は秘書役[illegible]同伴九日夜歸京の筈なりしも都合上十日午前九時二十五分南大門驛著列車にて歸京の事となれり

## ●原田會頭歸期

京城商業會議所新會頭朝鮮郵船社長原田金之祐氏は久しく東上中なるが年內には歸鮮すべき旨消息ありしと

## ●遞信協會機關雜誌

遞信協會は近く愈々成立を公表すべきが機關雜誌の初號は矢野通信課長主宰となり大正七年一月より之れを刊行すべきも其の初號は一月二十日頃の發行とならん

## ●朝鮮興業倉庫竣成

朝鮮興業株式會社釜山支店の經營に係る倉庫業は逐年發展しつゝあるが今回又復商島町に三百八十坪三棟の倉庫を新築せるが右は此の程愈々竣工せしを以て十日より一般營業を開始すべしと(釜山)

## ●電報輻輳不著

東京方面よりの電報は輻輳の爲め大部分本紙締切迄に著せず明朝刊に掲載す

## 人事消息

▲ボードウイン氏(東京米大使館附武官) 八日午後元山より入京朝鮮ホテルへ同夜出發大田へ
▲大垣丈夫氏(京城新報社長) 九日午前歸京
▲[illegible]一行 九日內地より入京
▲西田常三郎氏(元山每日社長) 九日午前元山へ
▲竹內超氏(咸鏡南道技師) 七日夜入京[illegible]旅館へ
▲津村哲四郎氏(江原道技師) 同上
▲宮永政藏氏(忠北道技師) 同上
▲岸秀次氏(慶北道技師) 同上
▲小野定誠氏(三井金剛鑛山主任) 同上
▲林生藏氏(全南道技師) 九日朝入京同上
▲向坂幾三郎氏(水原模範場技師) 同上
▲左納大阪瓦斯會社取締役▲三成同社員 九日夜入京浦尾旅館へ投宿の筈

## 忙中閑記 (一)
大阪にて 青霞生

○近來日本人の美術趣味は非常に廣範に行渡つて普及勃興して來た中流以下の家庭とも相應の趣味をもつて座敷の裝飾に注意するやうになつた、殊に中流以上大小成金華族等に至つては建築屋內裝飾調度などに非常な美術的趣味と骨董的趣味を發揮する樣になつて來た

○其美術及び骨董趣味に劃然と二つの潮流のある事が著るしく目につく、今本邦の[illegible]に光たつて少しく其事を語つて見たい、東京と關西地方と[illegible]內裝飾美術調度の趣味が大分異つてゐる、東京には大名華族などが標本となつてゐるから何方かと云へば純日本趣味で、繪畫で云へば土佐狩野派、調度は蒔繪物で光悅光琳、茶は抹茶式で[illegible]の名物などを好むと云ふ風である。

○關西では成金が多いから支那輸入の文人趣味や煎茶趣味と云つたやうな風が歡迎され、繪畫は南宗派や梅逸や貫名大雅山陽など云ふ式で、調度は紫檀物螺鈿物支那渡りの器物が弄ばれ愛賞されると云ふ風がある、この二つの潮流が東京と關西と劃然と二に分れてゐると云ふのではない、何方かと云へばさう云つた風の傾向があると云ふばかりだが、しかし東西を通じてこの二つの潮流が美術趣味の中に流れてゐると云ふ事は誰もが爭はれない事實であらう

○現に骨董品の入札などを見ても明かに其傾向が解る、東京では蒔繪物や土佐風の繪卷などが無暗と名高く關西では唐物螺鈿や、山陽貫名梅逸直入なども頗る高い、しかし兩地方とも純日本式と和漢折衷式とで成金の家は飾られてゐると云つて差支ない、和洋折衷式の油畫水彩畫セ、ツシヨンの椅子卓子マヂョリカ皿や佛蘭西燒の珈琲碗と云ふ風のものは其間に介在してゐる僅少な一部分の薄ペラな安ハイカラ趣味に外ならぬ、堂々たる現下の日本の美術趣味は前述の二大潮流の外には出でない

○勿論新しい畫家の作品にも故意か偶然か自然の傾向か知らぬがそうした二潮流に追隨してゐるやうな迎合してゐるやうな風が隱然と見ゐるのは之又爭ひ難い事實である、文展でも院展でもそうした分類法によつて當はめて行くと多くの作品はこの二潮流の趣味の中へ抱括して了ふ事ができる、順日本趣味は寫生風の歷史畫古代近代の美人畫土佐風の山水人物寫生派の花鳥等がそれで、和漢折衷趣味は南畫をはじめ南畫風の山水畫後期印象派風を加味した太い線の風景畫支那風俗支那歷史畫などがそれである

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五十錢 [illegible]
廣告料金 七號活字一行金[illegible]
京城太平町通一丁目 發行所 京城日報社 電話番號 [illegible]
發行兼編輯人 長田[illegible] 印刷人 小川三之助

時間表 (十一月一日現行)

[illegible]

## ●新しい光明 求むべく

◆◆科學發達の爲めに◆◆◆

▲奬勵費十五萬圓を豫算に計上

來年度文部省豫算の中に科學奬勵費十五萬圓を計上してあるが、右は曩の臨時議會を通過した普通敎育理科研究補助の

▽二十萬圓に 對して專門學校及び民間に於ける一般科學の研究を奬勵補助する目的で、既に文部省では各大學、各專門學校並に廣く民間に於ける科學者の研究を調査しつゝあるも、右に就き田所文部次官は語る『今度の通常議會に提出する科學奬勵費十五萬圓は少い樣だが

二十萬圓補助に就いて各府縣（義に適應した普通敎育理科の）の中學校師範學校から申込の經費は總て百二十萬圓以上に達したところを見ると年々當方から補助する金額は多くないとしても其の効果は存外に大なるものゝある事が解つた、補助

### □御冠を賜ふ 伏見宮博義王の御成年式

伏見宮博義王殿下には御成年に達せられたるを以て七日畏き邊りより御冠を賜はり八日宮中賢所大前にて御成年式を行はせられたるが九日紀尾井町御本邸にて御披露の午餐會及び晩餐會を催ほされたり（東京特電）

▽奬勵の目的 は言ふ迄もなく我が國の學問殊に從來兎角歐米諸先進國の後を追ふ傾のあつた科學の獨立發達に資する爲であろ、今や世界の大勢は何れの方面に於ても自給獨立と云ふ事を強く要求すべき時期に達してゐる 科學の方面でも各其の秘密を守つて決して洩さぬ樣に成て來たから到底模倣も能きないと云ふ有樣である、日本でも醫學理化學其他の方面に於て近來段々と獨創的研究が方々で行はれて來たのは誠に心強い次第であるが中には折角研究を始めても經費の不足から之を繼續して行けないと云ふのや

▽もう一息こ と云ふところまで押し進んで來たが其處でバツタリ資力が切れて涙を呑んで中止するなど云ふのが尠くない、甚だしいのになると皿一枚試驗管一本が買へないばかりに研究を抛たねばならぬ運命に陷ると云ふのさへある 此の樣な事は啻に一國の學問の進歩の上から非常に惜しいことであつて國家が之に補助を與へると云ふ事は當然である、で來年度本省豫算の中に計上じた科學奬勵費十五萬圓は專門學校或は民間の學者で最も有効で適切で且成功の望みの確實な

▽研究に從事 してゐる者を選んで適當な方法の下に經費の補助をするためで、本省でも既に多くの學者の研究を調査してあるが更に是から廣く調べる積りである、ところで 何うして定めるか經費の多額な有効とか確實とか云ふ標準は 要する應用科學の方面で補助を必要とする場合の多いのは勿論であるが、藥だとか機械だとか其の他形の上や力の上で効果を生ずるからと云つて應用方面ばかりに偏するなどと云ふ事があつてはならぬ數學とか純粹理化學とかの方面に於ても苟も

▽獨創力の著 しいと認めた研究に對しては適當の奬勵法を講ずべきである、例へば或純粹科學上の研究に沒頭してゐる學者が一際で一の新しい原理の發見に到達すると云ふ場合 其の人のあらゆる努力が捌け讃されて一家は路頭に迷ふと云ふ事もあり得る、そんな時には勿論この計上費の恩惠を受ける事ができる、いやそれは寧ろ國家の義務であると思ふ』（東京）

### ◉同志社紛擾

京都同志社大學は二派に分れて紛爭し原田社長は病氣の故を以て辭表を提出せり（京都電報）

### ◉劇場倒壞して數十名負傷

伊豆伊東に新築中の劇場は八日大旋風の爲め倒壞し數十名の負傷者を生じたり（靜岡電報）

### ◉女學校長醜行事件の公判

元名古屋市立第一高等女學校長槍山友藏及び同校敎諭境野五十枝の醜行事件に就き兩名より發見者並に掲載新聞に對し名譽毀損の訴訟を名古屋區裁判所に提出中なりしが其第二回公判は八日開廷され朝より夕刻に亙れり、檢事は校長に醜行無しと斷じ被告石黑すゞを禁錮三箇月に新愛知記者植木政道を罰金三百圓に同高木弘一を罰金百圓に狩野庄三郎を罰金百圓に處せん事を求刑せり又新愛知主事桐生政治氏は同事件に就き江木博士に寄する文書中『第一審第二審は有罪なる可し』と掲載したるより秩序紊亂として起訴されたり（大阪特電）

### ◉長島丸の行衛 搜索船の出發

行衛不明となれる大連埠頭事務所長島丸搜索の爲め更に八日朝遼河丸出發せり長島丸組乘員は船長堀添機關手水夫山本火夫高野外支那人三名なり（大連特電）

### ◉怪しい女 劇藥を携帶す

自稱東京府下大塚百〇五番地原田花子(三三)は六日對馬丸にて來釜し驛前岡本旅館に滯在せるが精神に異狀あり八日他出せし儘歸宅せず所持品無けれど劇藥を所持せし模樣あれば自殺を企てしならんと推せらる滯在中常に夫の不品行を口にし居たりと（釜山特電）

### ◉火藥爆發、死者八百

兩汽船の衝突から英領加奈陀

ハリファックス市街の大慘事

英領加奈陀ハリファックス港內にて兩汽船衝突の結果火災起れり其汽船の一は米國船にて火藥を積載したる爲め火藥爆發しハリファックス市中の家屋一として損害を免れたるもの無く死者八百名負傷者數千名に上れり紐育及びボストンよりは救護の爲め列車急行せり（紐育電報）

### ◉風船玉を呑んで幼兒の絕息

釜山大廳町米田庄五郎娘きくゑ(三)は九日午前十時風船玉を呑み久保醫院にて手當てせるも氣管に入り二回の呼吸を爲したるのみにて死せり（釜山特電）

### ◉列車で掏兒

慶北慶州郡慶州面忠孝里生れの金又出(二〇)は十一月二十二日京釜線鵜尾驛より太田行きの列車にて旅客某の現金三十三圓入りの財布を掏り取り大田にて六十圓を豪遊消費した後龍山に流れ込み一二箇所にて小泥棒を働きたる所を押へられ龍山分隊にて取調べの上檢事局送り

### ◉早大校友忘年會

早稻田大學校友會忘年會は八日午後六時より南山町梅の家に於て開催出席者は川上東拓理事を始め折納入城京中なりし朝鮮銀行理事大支店長小西春雄氏元山每日新聞社長西田常三郎氏等も出席し校友卅餘名何れも學生時代に若返りで和氣藹々裡に獻酬盛なりしが午後十一時校歌を高唱して解散せり

### ◉歲末大賣出し

例年の通り京城本町一丁目著名商店にては十二月十日より三十一日迄有志聯合歲暮賣出しを催す由にて本年は特に景品を選擇し最近發賣の勸業債券二千圓割増附數枚を始め各種家庭用品を附し即時景品引替所に於て交附する由

### ♣初冬スケッチ―雪の日―

音もなく降つた夜の雪が朝日や光の反射で波を打つて赤に青に人の眼を射る頃は小供は頬を林檎の樣に赤くして飛廻つてゐる異國情調の漲る貞洞の一廓は四季を通じて僕の美慾を滿足せしめるが別けて雪の日に役所の人や學校の生徒達が身を赤くして各の志す門を入つた後、もとの靜寂に歸ると各校のチエードレンが紺青や海老茶の僣裝に黑い長い靴下を見せて雪の積もつた樣に雪路を子なかつた一番小さい兒が蔵せて勾配を上つたり下つたり幾度も繰返して遊んでゐる樣は他では一寸見られない朝鮮の冬も亦愉快なものだ。―― 峰 生 ――

## ◇春場所は 豫想番附を……

▽角力雜話のその一△

逐て見る東西の横綱 突如として起つた國技館の丸燒けは一月場所が直ぐ眼の前に迫つて來て居る折柄だけに島渡好角家の膽を冷したが、更に角念坦の間に合せとして九段の角力場を借りることになつて春場所は無事に興行するらしい今茲に角力雜話など生可通を並べて見るのも滿更無駄な事でも無いやうだ場所近くなつてくると好角家の誰でもが先づ頭に描いて見るのは前場所の成績によつて

◆◆力士の 地位の上下される新番附の豫想と、東西の優劣如何といふやうな問題である、これは確かに面白い事であるが同じ好角家の內にもそれ／＼贔負々々があつて東西いづれかの贔負方に有利な理屈をつけて衷心からその勝を祈るやうな事もある、試みに前場所の星取表を根據として

◆◆協會の 金庫の奧深く藏してある春場所の新番附を豫想して見る、但しこれは記者一個の私見でその當不當は保證出來ないことを斷つておく、

| 新 東方 | | 新 西方 | |
|---|---|---|---|
| 横綱 | 大錦 | 横綱 | 太刀山 |
| 大關 | 栃木山 | 大關 | 朝潮 |
| 關脇 | 九州山 | 關脇 | 大鳴門 |
| 小結 | 宮城山 | 小結 | 千葉ケ崎 |
| 前頭 | 對馬洋 | 前頭 | 黑瀨川 |
| 同 | 逹の矢 | 同 | 大潮 |
| 同 | 常の花 | 同 | 錦島 |
| 同 | 源氏山 | 同 | 大戸平 |
| 同 | 駒泉 | 同 | 土州山 |
| 同 | 逆鉾 | 同 | 眞砂石 |
| 同 | 宇都宮 | 同 | 敷島 |
| 同 | 岩木山 | 同 | 柏戸 |
| 同 | 龍ケ崎 | 同 | 紅葉川 |
| 同 | 大の高 | 同 | 明石 |
| 同 | 釋迦ケ嶽 | 同 | 彌高山 |
| 同 | 一湊 | 同 | 石山 |
| 同 | 小常陸 | 同 | 淸瀨川 |
| 同 | 八甲山 | 同 | 浦の濱 |
| 同 | 綾川 | 同 | 玉手山 |
| 同 | 大門岩 | 同 | 三杉磯 |
| 同 | 緋柳 | 同 | 琴ケ浦 |
| 横綱 | 西の海 | 横綱 | 鳳 |
| 關脇 | 兩國 | 大關 | 伊勢濱 |

この番附を通じて見ると

◆◆九州山 は關脇となり兩國は張出されるだらう、宮城山入つて小結となり前場所に喧ましい問題になつた大潮、淸瀨川、彌高山は無論新西方に復歸し尚大の西方に歸るのが當然であるが斯うなると四人の缺員に對し新東方の入幕は大門岩、緋柳の二名より無く結局二人の空席を生ずるから、多分獨立の

◆◆小部屋 である振分部屋の大の高をその儘東方に止めおくれこれを補ふことになるかも知れぬ、新西方では朝潮と伊勢の濱が外若松部屋の八甲山を東方に廻し又復正大關と張出し大關の位置を代へ大鳴門の關脇千葉ケ崎の小結として新東方から約束通り三人が街といふやうな事になるだらう、そして新東方から約束通り三人が踊し琴ケ浦、三杉磯等の

◆◆新入幕 がある以上、茲に勢ひ四人の入員超過を來すので現在の幕內人員を殖さぬ限り不成績の鶴渡り、鳴門洋、藤の川、若島等は幕下に陷落することになるだらう、前場所不權衡となつた東西の實力は茲に漸く相等しくなつて來たのを見る、つゞく

## 八雲琴（九）

（淪落の女の末路）

Aの涙は新たになつたそして沈み切つた聲で『許して上げますッ……貴女と僕との初戀は既に死んで仕舞つたと同樣Aの精神も戀と共に死んで仕舞ひました

◘此の軀は◘ 骸骨だけでも早く貴女の眞實を聞たなら今頃は立派なAとなつて居たでしようが一度死だAの精神は再び元に直りません此Aは一生酒に荒んで骸骨を養つて暮しましようア、何事も世は夢だ……貴女も御身を大事にして

◘折角親切◘ な夫を御大切になさい』ア、何たる悲痛な言葉だらういさ子は冷やゝかな甲板に身を投げ伏して泣くのみであつた、Aはいさ子に對する怒も解けた以前にも增して不憫の情も加はつた抱擁して

◘慰めても◘ 見たかつた、然し彼女は元のいさ子ではなかつた今は人妻と云ふ恐ろしい鎖りを被て道德と云ふ恐ろしい鎖りの城に住むいさ子であつた其夜七日してから淸津の海岸で投身せんとして或る料亭の主人に救はれた婦人があつた其婦人こそは苦しき

◘現世より◘ のがれんとした彼いさ子であつたのである驚きさ子は夫に引き渡された然し一度は夫に秘めし事を告打明けて愛の無い結婚は到底永續しないから、との理由で美事に離緣を要求した夫の軍醫も軍刀の手前何も云はずに承知した彼女は然し

◘歸る家も◘ 無き女である投身せんとした時救われた料亭の主人に萬事を懺悔してAとの取持ちを頼んだ主人も俠氣の有る男で快く承諾してAの

◘船の入港◘ を待たせた Aは何事も知らず無事浦鹽への航海も終へて淸津に入港した主人は早速Aに逢つていさ子の堅い決心と成り行きを物語つて結婚を申し込んだ然しAには釜山の藝者で文也と云ふ既に子迄生したる

◘深い女が◘ あつたので『不憫は不憫だが今更妻とする譯には出來ません』とキツパリ斷はつて仕舞つた實際Aとしてはいさ子の心根を思ひ遣るに付け不憫で堪へぬ然し二年前に女の不實を恨みそれが原因で目的も遂せなかつた其深い恨みと共にいさ子に對する

◘愛は消に◘ て居て只不憫と思ふに過ぎなかつた亦散々苦勞をさせて子迄出來た文也はどうしても忘れる事も捨てることも出來なかつたのである、女が思ひ詰めたら極端から極端に走る事が多いいさ子は廣い世界に

◘歸る家も◘ 兄弟も無い女であるたつた一人のAには見捨られて仕舞つた彼は料亭に厄介になつて死ぬる程苦しんだ結果今迄一滴も飲まなかつた酒に憂を忘れんとしたぐ／＼してる中に

◘所持金も◘ 無くなつた衣類も失くなした今では心ならずも何等かの方法で自活の途を立てなければならぬ窮境に陷ちた彼は其後旬日ならずして聞島の料理屋で大膽にも藝者として現はれたのである彼女は三味も舞も知らぬ

◘唯一つの◘ 八雲琴のみで藝者として出たのは頗る大膽な目論見であつた其頃から盛に酒を飮んで氣の小さいお客の度肝を拔いた相である

### 讀者文藝（一句五十錢 [illegible]）

下旬付『夜寒さに』

◎夜寒さに抱縮て寢る子煩惱（第一） 龍山鐵道第一合宿 傍島庸

▲…眠られぬ儘の一人言 利用 芳坊

▲…猫し滿鑑に丸くなり 利用 ららなり

▲…居屋既たに叩かれる 龍山 小草子

▲…膝を抱擬の老書生 京城 渡邊存泉

▲…とける首縊なあこでしめ 京城 左東

▲…便病氣のなまけ諸者 京城 二三夫

▲…去つた女を思ひ出し 京城 よしじ

▲…そつと覗けば銀世界 汝山 千波

●檢事局送三件 黃海道海州北幸町炭商韓振彬(二九)は去七月廿五日鎭南浦後浦里金永俊の[illegible]を毆打して負傷せしめ傷害罪として▲僞兩機里朴仁善(二四)は社井里の朴根植が一光學校の運動場にて遊[illegible]南浦下丘村[illegible]鎭南浦旭町洗濯業八木勉太郎方職人竹和[illegible](二五)は去る十一月廿五日鎭南浦倶樂部の[illegible]り森刑事が探偵の末同人の所爲と判明六日逮捕され取調中

●連絡船七連容 八日午前[illegible]

[illegible]

▲示度七五四粍▲進行方向東北古ム[illegible]▲警戒區域平安南北兩道兩沿岸及咸鏡南北兩沿岸最も警戒を要す

●暴風雨警戒（午前十時發）

### 課題及び募集規定

□募集規程 ▲用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事 ▲贈賞は一週間後 ▲種類の異る毎[illegible]

天氣 くもり

北西の風後晴 ▲十二月十一日（九日午後六時より十日午後六時迄）[illegible]


◁十二月十日より三十一日迄◁

# 景品附大賣出

引換場所 京城本町一丁目百三十銀行前

◁京城本町一丁目有志聯合◁

景品目錄

◙特等 一本 (新)勸業債券四枚 武千圓割増附

◙壹等 四本 甲 三ツ重食籠 壹掉宛 乙 (新)勸業債券二枚 武千圓割増附

◙貳等 五本 甲 (新)勸業債券一枚 武千圓割増附 乙 上等茶棚 壹本宛 丙 大鏡臺 一面宛

以下略す

御運のよき人は僅か一圓の御買物で…… 八千圓 當籤の御樂しみある 特等景品 があたります！……

大阪各大學病院指定品

純良 赤門葡萄酒

滋養補血には赤門葡萄酒に限る

大阪道修町 小西商店洋酒部

到る所の信用ある藥店洋酒罐詰店にあり

年末の御進物には 東京で評判の旧九屋の 福々豆とのりかきを

京城本町 大和軒 電話四八九番

賜天覽 名實共に日本一 福助足袋

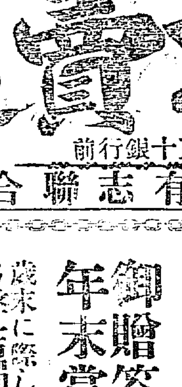
御進物用に福助足袋 お正月用に福助足袋

歲暮大賣出し

御贈答には 金指環 年末賞與には 時計

歲末に際し聊か平素の御愛顧に報ひん爲め弊店獨特の趣味ある割引抽籤賣出を以て公平に各位に御滿足を得る樣にしてあります

金指環時計一圓五十錢以上各種取揃へてあります



京城本町二丁目 川合時計店 電話二九一八番 振替京城一弍一九

眼科專門 京城若草町（總督部通り若草町新路中程） 電一五五六 金井眼科醫院 新築落成◙入院隨意◙日曜祭日午前中

……何れも鎮南浦署にて取調の上七日檢事局送り

◎出來心の盗み　大阪府泉……に掛けあるを見て急に欲しくなり幸ひ人氣無きを見濟し扉子を破りて窃取したるが小島の盗難届に依……

## ◎奉天喇嘛寺の大倉男（蒙古料理の御馳走）（奉天支局撮影）

## ◇『牛の乳モウ古料理の珍らしさ……』

◇大倉男奉天の喇嘛寺に舌皷をうつ◇
◇西洋のバタは蒙古人が其の元祖◇

北京から歸つた大倉翁は奉天の小西邊門外の喇嘛寺で蒙古料理に舌皷うつた、御馳走のあとの狂歌といふのが『牛の乳モウ古料理のめづらしさ貴族調理は喇嘛の醍醐味』……いかにも御馳走は此の

◆狂歌一首　に盡く、蒙古料理は何もかも牛乳づくめの料理である、それに喇嘛寺ですゝめたのは蒙古の王樣の召し上るもので謂ゆる『貴族調理は喇嘛の醍醐味』であつた、此の日男の陪食に集る者赤塚總領事を首め淺岡首補、督軍顧問の菊池大佐、町野中佐、それに宮越署長、陶通譯官、笹部杉一氏、永野、田村、河本氏等、喜八郎男のお供には本溪湖の林理事と天津大倉組の中村氏が來て兩君共若いにも不似合の白髮と禿頭で老齢の大倉翁の引立て役に來たやうな光景、御馳走は蒙古料理の前觸れよろしく

◆天幕の中　に生きた羊を居るかと內心ビク〳〵もので居ると『今日は猛烈な奴は一切廢めました』と釋默笑師がニコ〳〵して居る、先づ現れたるは『ナイピン』と稱する蒙古の牛酪、それに牛乳で造つたチースのやうな紅白の菓子が出る、モ一つ卵燒のやうな『牛乳卷き』が出て何れも美味い『成吉思汗は此奴をなめつゝ歐羅巴を蹂躙したから偉い』と菊池大佐が蒙古人になりすましたやうな面をすると大倉翁曰く『西洋の牛酪も元は蒙古から出たと云ひますな』とそろ〳〵謂因緣が始まる、牛酪は蒙古語の『シャッタズ』である、翁また曰く『成吉思汗の軍は今の歐羅巴を攻略した時、軍規整然、途に落ちたるを拾はずといふ風で掠奪などした者は假令部下でも衆人の前で殺した相である、それで萬里遠征して後顧の憂ひが無かつたと云ひます哩『大政治家ですた』と赤塚總領事が感服すると翁は

◆天下の材　です哩と相槌らずニコ〳〵、蒙古の牛酪は大甕なとになつた、男の前には喇嘛僧の一人で黄色の服を著た喇拉哈加ト和尚が控へてゐる、喇嘛は十中の八九蒙古文字を知らず何れも西藏文字を用ひるとの事であるが此の和尚は蒙古文字で故郷の地名を書いた、西藏の文字は卅八文字、歐羅巴のアルハベットの元祖だとの話してあつた、其の內菊池大佐の馬車が大倉男の自動車に驚いて馬丁が鼻血を出し馬車が壞れた……その報告が來る愈よ以つて蒙古らしくなつて來る、御馳走は牛肉の煮たのが出た、續いて

◆羊の丸煮　が盆に盛られた翁は刀の附け初め役となつて例の蒙古の箸と小刀をつるした腸差を腰に吊るすのは朝鮮人が用ゐるのと同一である——續いて菊池大佐が『大に蠻的でなく〳〵ちやあ不可ん』と大きな肉塊を切りとる、一座は愈よ成吉思汗らしき光景となる、續いて『ネンボーボ』といふ粟餅が出る

◆『八寶飯』といふ飯が出る飯は牛乳であげられて中に紅、青、黒、美しい木の實がある、更らに『トコロタン』に至つてはところてんとまがひ相な麥粉を牛酪であげたもの、其處へ大喇嘛の小僧が出て來てお菓子を貰つた代りに西藏語のお經を讀むのも面白い、お了いに炒米と稱する稻黍の焦つたものが出た、蒙古人は炒米の一握りをパクリとやつて水を飲みそれで平氣で軍をするのだ相な、大倉男は牛乳に炒米を入れて二杯ばかり飲み一番健啖で驚かした、お終に男は『蒙古の沙漠が見たい』と云ひ出した『私はこれから支那で働らく、日本の事は

◆若い者に　委せて大に支那でやらねばならぬ、外蒙古あたりを見たいものですね』と却々の元氣であつた、釋默笑師は笑ひながら『こんどお寄りの節は西藏料理をあげます』で一同大笑ひとなつた、因に寫眞の中央は大倉翁、その左右は蒙古の喇嘛、右は釋默笑師、後列左より笹部氏、水野氏、天津大倉組中村氏、赤塚總領事、町野中佐、菊池大佐、宮越署長、河本氏、陶通譯、川本大倉組奉天主任、田村氏、最後列は淺岡氏、林撫鐵公司理事（奉天）

## 鼠の自働車

鼠が一匹そつと坊ちやんのオモチヤ部屋に忍び込みました。そしてきよろ〳〵部屋の中を見廻してゐましたが、

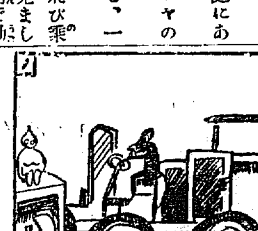
『あつた〳〵、やあ〳〵此處にあつた。』

と獨言を言ひながら、オモチヤの自動車の傍へ行つて、

『この自動車に乘つて行つて、一つアツと言はせてやらう。』

と鼠はオモチヤの自動車に飛び乘つて、ハンドルを動かして見ましたが、オモチヤの自動車が何で動きませう。

動かないか。これはいけない。動くかと思つてゐたら當てが違つた。と鼠はがつかりしたやうに言ひましたが、



『好い〳〵引張つて行つてやらう。引張つて行つてこれは俺がたつた今、フランスから買入れた自動車だと言つて威張つてやらう。そして皆をびつくりさしてやらう。』

と鼠はその自動車を引張つて、オモチヤ部屋を出ました。

その晩は、物置小屋の中で鼠の大會があるのでした。其處へその鼠は自動車を引張つて行つて威張る積り！

物置小屋の鼠の會場には、大勢の鼠どもが寄集つてをりました。其處へ自動車を引張つてその鼠が乘込みました。

『やあ、ハイカラ紳士！』

と鼠どもは聲を揃へて言ひました

『皆さん、もうお揃ひだね。』

とその鼠は自動車を會場の眞中へ引張つて行きまして、

『この自動車を見て呉れ給へ。これはたつた今僕がフランスから買つて來た最新式の自動車だ。』

と言つて威張り出しました。

『やあ立派な自動車だな。最新式だと云ふだけあつて、チヤンとハンドルも附いてゐる。』

と一匹の鼠が感心しながら申しました。

『馬鹿を言つちやいけない、最新式でなくつても、ハンドルの附いてない自動車があるものか。』

と一匹の鼠は笑ひながら言ひました。

『さうとも〳〵、この自動車はハンドルの附いてゐるところが最新式ではない。ハンドルを廻してもさつぱり動かねところが最新式だよ。』

と一匹の鼠が言ひました、さう言はれた持主の鼠は腹を立てゝ、

『失敬なことを言つてはいけない、ハンドルを廻すと、何處までゞも動くよ。汽車よりも飛行機よりも早いんだぞ。フランスから買ひ立ての自動車だもの。』

と言ひますと、

『あはゝゝ、君のフランスは坊ちやんのオモチヤ部屋だらう、その自動車は去年の九月から坊ちやんのオモチヤ部屋にあるオモチヤの自動車ぢやないか。そんなものを引張つて來て、威張つたつて駄目だな〳〵。』

持主の鼠はから言はれて、顏を眞赤にして、自動車は置き去りにして逃げ出しました。（をはり）

## ◎長春滿鐵病院　支那人患者の增加

長春滿鐵病院の近況を聞くに近頃冬期に入りてより夏期に於て頻なりし傳染病患者の既に終結期たるにも拘はらず依然として減少律の少なき傾向あり、殊に近時猩紅熱の多き事なり此の理由につきては當該醫師も確たる決定を見出だし得ざるが如きものあれど主として城內なる支那住民のうち傳染病患者を隱蔽者が放棄し假くに大體の原因あるが如く又當年は

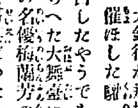
▲列年稀なる溫暖　にて未だ終結の時期に至らざるも其の一因なるかと察せられつゝあり、現に傳染病隔離室に在る者三十五名に及び夫れ等は皆日本人にして其內チブス三十名、猩紅熱五名あり支那患者にして傳染病患者は殆ばあるも下級民に多くして彼等は殆んど凡てが支那能力を缺ぐトに假令此の點は病院側にて取はからうも

▲退院を強要して　已まざる者多ければ此處までは手の届かざる理由もあり院長宇山醫學博士は語つて曰く支那人と云ふも下級民は未だ致し方なしと見て中流以上の人士は近來同病院に信賴するの念甚だ盛にして現に一二等入院患者の半數以上は支那の中流以上の患者なり病名は內科患者多きも泌尿生殖器科患者もあり而して通ひ患者に此の生殖器花柳病患者の近來

▲激增したる傾向　あるは見逃がす可からざる事實にて忌來支那醫者なるものに曖昧なる者多く快癒せば謝禮何程と云ふ前約にて負受ふ者未だ少なからざる程なれば稍々新敎育を受けたる人士は日本醫を信賴するは自然の勢と云ふべし耳鼻咽喉科の來患者の如きは

▲支那人に絶無こ云ふ　程なりしも近々漸く增加しつゝあり又眼科患者の如きは在來は甚だしき手おくれのみ來診を乞ひしも近來は初期の患者にして來る者少なしとせず如斯士は大體に於て好傾向と見るべく現在は日々邦人患者七十名に對して三十名餘りの支那患者ありて斯くの如きは例年の倍にして其の多くの花柳病患者なるが多少にても支那人が衛生的知識を知り行くは悅ばしきことなりと（奉天）

## 白山思水



▲北京で大もてにもてた大倉男は支那六大銀行が洪桐公館で催ほした歡迎會が除程お氣に召したやうである▲殊に座敷に設らへた大舞臺には現代支那第一流の名優梅蘭芳の歐劇があつて非常な盛宴だつたといふ▲筋は維摩居士の病床を天人が見舞うて雲の中に輕羅玉腕飛ぶところを見せたもの▲男は早速鶴彥翁にかへつて十八番の狂歌で曰く『天人の雲の臺に舞の袖、かへす〳〵も面白きかな』と▲男また曰く梅蘭芳のやうな天才は鳥渡日本などには比較する人が無い▲其の標緻と云ひ聲と云ひ人を腦殺し艶殺する程の美しさである▲由來美人の標準は觀音樣のやうに三十二相を具へなければならぬとしたものだが先づ梅蘭芳は十六相は揃うて居る▲それに手振と云ひ舞と云ひ支那の歌劇は實に進んだものですな▲序に奉天で記者に惠贈された色紙には『山海關にて』として▲長城のむかしをおもひます錢天下一なる山海の關』の傑作がある▲借つて面白くが歌の意味をそのまゝに解釋するさ鶴彥翁は頗る御機嫌めてゐる▲でもこいへば『一天下一なる』の文句が一語一貫に千金のむかしの錢には一分論今の大阪一打一通の代物でない錢には總て裏面に『天下一』の文字があつたものださうな▲那麼謂れ因緣を知らずに『ハ、ア山海關ですな』とでも云はうものなら翁は名工苦心のあとを知らぬとあつて氣を揃いて長嘆やゝ久しうする（奉天）

## 懸賞　新年文藝　募集

課題 ▼和歌『寄馬祝』▼俳句『初東風』▼川柳『吉』▼俗謠『若水』▼ものは付『〓しい物は』▼一口噺『新年』に因めるもの一▼謎『門松とかけて』▼下句付『初夢に』

制限 何れも一人に付一題一首又は一句、但し一人にて幾題投稿するも可し（用紙）葉書又は同型の紙（〆切）十二月十五日（注意）應募稿は別に用紙に認むる事（宛）京城日報社新年文藝係宛投稿附する事

賞品 各題に付▲一等一賞（一人）▲二等五十錢宛（二人）▲三等三十錢宛（三人）（但し本社代理部の相當商品券贈呈）

## ◎暴風警報（八日午後十一時發）

▲風強かるべし▲低氣壓は黃東豪……

◎暴風警戒（九日午前……）▲強かるべし▲渤海の北方七四二粍▲進行方向東北東▲警戒區域江原道慶尙南北道沿岸

[illegible]

## 演藝案內

大正館　櫻井町　電話八七三　[illegible]

有樂館　[illegible]

黃金館　電話二三六六　[illegible]

浪花館　明治町二丁目　電話二六〇番　[illegible]


産婆看護婦志願者募集　[illegible]

國産 優秀卓絶價格低廉 白檀油代用藥 コノサルビン　[illegible]

京城電氣株式會社製 コークス 一手販賣 京城南旭町一丁目 横山屋商店 電話一三三五番　京城南旭町一丁目 戸澤商店 電話九八四番　▲地方御注文は迅速に出荷可仕候

誠實なる製品ぞれ安全第一

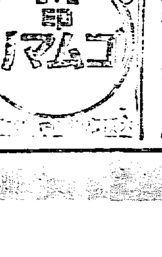
消化新藥 ヂアスターゼ

職業 上田總本店 [illegible]

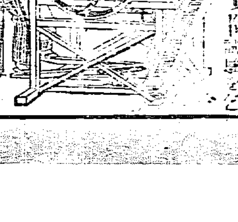
東京市神田區五軒町一番地 米山商店 [illegible]

▲寒さとトンビ▼
一 特長トンビ 金參拾九圓也
一 甲 同 金參拾六圓也
一 乙 同 金參拾圓也
（頭巾付一割增）
一 女コート 特價 金拾九圓也
一 行燈袴 特價 金九圓也
◎純毛にして色合は新流行鼠色
◎世間有りふれたる內地製品にあらず
◎純英國製にして「シワノヨラヌ」事保證付
但しコート袴共五拾枚限り右特價發賣仕候
京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

朝鮮名物 栗羊羹 京城本町 電話二七四五番 龜屋



M印 ゴムマリ



人力精米發動機 [illegible]


荊妻ふみ儀豫て病氣中之處藥石効なく本日午前十一時四十分死去致候に付生前辱知諸君に謹告候也
追而葬儀は來十一日午後三時自宅出棺本願寺に於て執行仕候
大正六年十二月八日
夫 武田左喜太郎
親戚 阿部公紀 石原弘基 北村留吉 立木健吉
總代 藤森辰治 眞野富太郎
友人 關口武者太郎

父文五郎儀病氣の處療養不相叶去る五日死去仕候此段生前辱知諸彥に謹告仕候
追而葬儀は明十日午後二時自宅出棺龍山瑞龍寺に於て執行仕候
大正六年十二月九日
女 那須貞子
親戚總代 那須彌三郎 那須達之助 篠田玄一 宇野彥
友人總代 小森虎吉 津田辰次郎 三好和三郎 前田伊左衛門 竹中久藏

汽車　京釜線（南行）　同（北行）　釜連絡　湖南線（南行）　同（北行）　京義線（北）　同　京仁線（仁川行）　京元線（北行）　同（南）　[illegible]

# 左甚五郎

第百八席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

孝行の心を天が愍れみて酒を酌せる養老の瀧美濃の小三治は親に酒を飲せんと瀧水を汲んで持歸り、酒と名付けて備めると不思議やその水は酒になつたといふ、是れ天の孝子を助ける處でございます、彼の九助は莫大の黄金を得て、家を再興したといふのも天の助けでございますと、九助より紀州家へ納めましたる銘刀、備前長船長光、捨丸と云つたを紀州家にて拾丸と改めました、因によつて申上げますか、此長光の父は備前國長船の里に住し三郎右衛門長吉と云つた人でございます、長吉は暫く京都に出て居ました處烏丸大納言殿より禁裏御料の御刀を鍛て差上る樣にといふ事で長吉は大きに喜び精進潔齋をして水を浴び身を清めて夫より刀を鍛始めまする、日數百日にして最も美事なる一口の劍出來をいたしましたから直に夫を烏丸大納言殿の許へ納めました、スルと如何なる譯か其劍は長吉の方へ戻されまして、かゝる劍は勿體なくも朝廷の御料には相成らんと云つて悉く不首尾でございます、三郎右衛門長吉は嘆息して　長『我折角精神を籠めて鍛つたる劍をお用ゐにならんと云ふは如何にも殘念なること、然て見れば未だ我が腕前も未熟であるか、此の上は故郷長船へ立歸り、一生懸命修行して再度御劍を鍛ん』と三郎右衛門は故郷へ戻つて此の事をのみ心懸けて居りました、けれども追々年を老て何分にも名作が出來ません、倅の長光が十一歳の時三郎右衛門病に罹り種々手當の甲斐もなく今日か明日かと一命は旦夕に迫つて來た最早是迄と思つたか、三郎右衛門長吉は倅を枕邊へ招んで　長『倅太郎、我が申して置くことがある能く承はれ　倅『ハ、　長『先年都へ出て禁裏御料の御劍を鍛つて差上げたる處、御召しにならずして却つて御不興を蒙る、我是れに耻ぢて故郷へ歸つて隱遁為し、願くは今一口の劍を鍛つて、朝廷へ差上げて、此の耻辱を雪がんと思へど、何を云ふにも老衰をして鍛つことも叶はず、汝父に代つて一口の劍を鍛へ朝廷へ納めくれよ、和州初瀬の里千壽院の大和尚は刀を鍛へる古今の名人、此の人に就て學ぶ樣いたせ、必ず此のことは賴み置くぞ　倅『父上のお言葉堅く相守り耻辱を鍛へて納めまする

長『其の一言を聞いて我も安心をいたした』と大層喜びましたが、是れから三日目に父の三郎右衛門は相果ました、倅長光の歎きは一方でありませんが、歎けばとて返らぬことを葬送萬端取濟せて僅か十一歳の太郎長光、備前を立つて大和國千壽院を訪ねて參りました、定めし立派な寺であらうと思ひの外也も如何なる破れ寺でございました、太郎長光は其處へ入つて參り案内を申込むと、其處へ出て參つたる千壽院の住職、見ると十一二歳の小兒が立つて居るから　僧『だはお前か　長『如何にも俺だ　千『何の用か　長『用があるから來たのだ　千『口のへらぬ小倅だな　長『何うか和尚さんに取り次いで貰ひたい、お目にかゝつて願ひたいことがある　千『俺が千壽院だ　長『お前が和尚さんかね俺は又蛸坊主だから納所かと思つた　千『蛸坊主とは甚いことを云ふ奴ぢやな、然して用といふのは何だ　長『お前さんの弟子にして貰ひたい　千『イヤ〳〵それは廢したが宜からう、坊主なぞといふものはつまらないものだ、修行中は骨が折れるし、なつた處で一寺の住職、出家は三界無宿と云つて家は無い、然て見れば乞食同樣な者である　長『俺は坊主にならうといふのではありません　千『そんなら何にならうといふのだ　長『俺の願ひといふのは他事ではない』と容儀を正して傍へ寄りました

外科　一般皮膚科　泌尿器科　花柳病科
院長　安部修三
京城永樂町三丁目金光教會隣　安部醫院　電話西一一九番

高麗人蔘エキスは品質の純良を以て多大の信用と名譽を博しつゝある
京城一丁目　小笠原大藥房　振替[illegible]

質　本多質店　京城太平通二丁目　[illegible]

十二月十一日九星
舊十月廿七日丁亥
木命　六白　乾　兆　赤口
[illegible]

周易　介石堂　明治町三丁目　[illegible]

## タン、セキの病には？

口大變よくきく藥

痰咳が出る病には種々あるが、先づ其苦しい咳を止め、それから痰を祛つて晴々した氣持になるのには『呼吸器散』が一番よい。又粉藥の嫌な人には其を丸藥にした『呼吸器丸』が一番よい。

口信用の厚い譯

痰咳に偉効のある呼吸器散と呼吸器丸これ、健脳丸其他の[illegible]用のある藥を選つて製劑してゐる丹平商會藥房で出來る、其の丹平商會の製藥工場で丸藥と共に丹平商會の專門の技師藥學者達が研究を積み嚴密な監督の下に製劑されたもので、呼吸器散も呼吸器丸も、最新學理に據る鎮痰鎮咳の高貴特効藥を配伍し、連用して副作用なく、婦人小兒にも至極服用し易く、而て奏効の早い良藥であるから、一度用ひた人は何時迄も忘れない。

口藥を買ふ注意

一般藥を買ふのには、能々注意して買はないと、同じ金を拂ひ乍ら效驗が見えず、然う斯うしてゐる裡に手重い事になる場合がよくある。丹平商會の製劑は幾多の患者が實驗して效がよいので、世の信用も非常に篤い譯であるから、藥を買ふ時にはどくと丹平商會の名を認めてお購になれば安全である。

口痰咳持病の人

よく世間には毎も咳をせき乍ら平氣である人があるが、是は甚だ危險な話で、捨て置いたら什麼事にならぬとも限らない、其も治すのに大變な手數でも要るなら兎に角、呼吸器散や呼吸器丸は何處の藥店にも賣てゐる、萬一無かつたら本舖の大阪心齋橋二丁目丹平商會、東京日本橋箔屋町丹平支店、大阪平野町の丹平分店かへ、振替で注文すればよい。

口たん。せき。の種々

咽喉加答兒、氣管支加答兒、肺炎、百日咳、喘息、肺結核等の病には咳が出、痰に苦む事が多い、呼吸器散と丸藥とは斯う云ふ病の咳を鎮め、痰を祛り、連用すれば胸苦しさを和らげ、夜分もよく安眠が出來る。抔、偉効が實によく現れる。尚ほ非家庭に用意あれ、倚劇しき熱發を伴ふ時は丹平發賣の蛇印アンチピリン丸を併せ用ひられたら一層早く癒る。價は十錢から四十五錢迄種々あります。

## 軍隊毛布

必ず買へ遅れて後悔する勿れ

先頃來本社が提供せしロシア軍隊防寒用毛布の破格物在庫品僅に僅か三千組となり決算都合上是非年内に賣放し度く茶褐大判二枚續一組（毛延）原價値なる一圓九十五錢で御注文に應ずれば此際至急（ハガキ）で申込次第受付順に小包郵便で發送す普通の店で二圓以下で買ぬ品

東京神田　東京織物仲買店　振替東京七三一六番

## ね小便　治療好期

本院は長尾博士苦心幾多の新製劑は効力偉大全治疑なし全國各縣の患者續々來診者多く[illegible]切手[illegible]東京[illegible]療院[illegible]

## 大阪で大流行の　高貴御召と大嶋

物價調節の爲め織物界の大瓦落さは何人も知れる事なるが常に機敏なる大阪東區瓦町大阪工藝校前に日吉屋呉服店卸部ではメチャ〳〵に安い品を山程買い込んだ中に取り分け安い品を近來賣出して居る●高貴御召織一反只の二十錢別●上三圓八十錢●縞大島一反只の三圓五十錢と云ふ木綿九十錢別[illegible]でも出來ぬ馬鹿直段であるから非常の大人氣であるが此際品切れならざる内至急ハガキで女別年齢を記入して申込めば親切に見計らい代金引替（運賃）にて送る山

## りん病

と消渇　自宅で秘密に

なをす家傳秘法の妙藥あり同病で困る方只一劑を試よ切手三錢送れ其妙藥の詳細を教ゆ

名古屋市南かじや町　武藤亀吉

複方　ヨードカリウム丸

は下疳横痃骨痛梅毒及び神經痛『ロイマチス』の特効藥として賞讃を博せり
▲定價一週分金五十錢、二週分金九十錢、五週分金二圓

淋疾内用　ゴノレヤー

強度の殺菌力を有する藥劑の配合にしてりん病消渇内用藥として唯一の良劑なり
▲定價一週分金六十五錢二週分金一圓二十錢五週分金二圓五十錢
マラリア特効丸本舖
京城本町一丁目　龍山　林藥房
代理店　合資會社　釜山辨天町　山岸天佑堂
代理店　平壌大和町　大黒南海堂
代理店　森田草樂堂

ドンナ頑固なりん病も快く治る　專賣特許

淋病醫藥　溶彈ブージ

本藥の特長は、發病當時及慢性淋病を完全に醫治し得る尿道坐藥にして、之れを尿道に挿入すれば、體溫に因り直に溶解し、殺菌（[illegible]）收斂（[illegible]）消炎（[illegible]）等の作用により、如何に頑固の淋病も忽ち奏効するを以て淋病豫防にも奏効あるのみならず、注射洗滌の手數等を要せざる爲、秘密治療の目的を達することを得。

（價定）六日分金六拾錢　十二日分金壹圓　廿八日分金貳圓

内服　コナール錠

本藥は服用後、胃腸を害せず何等の副作用を起さず本藥獨特の化學的變化は淋病、消渇に對して、忽ち殺菌（[illegible]）收斂（[illegible]）消毒（[illegible]）利尿（[illegible]）等の作用をなすにより前記溶彈ブージと併用すれば其治癒最も速かなり。

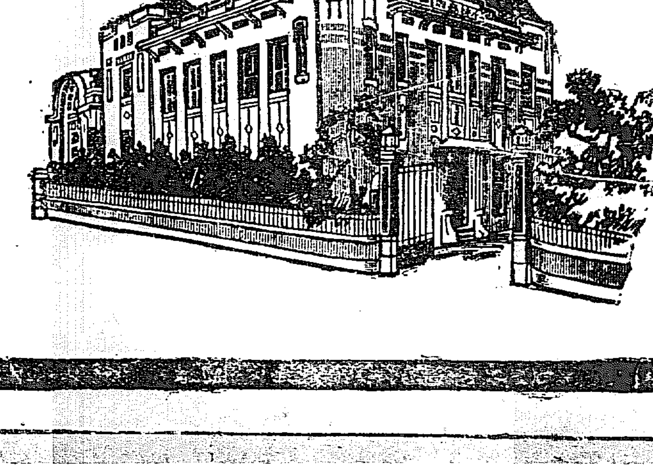
（價定）廿五錠入金參拾錢　五十五錠入金六拾錢　百錠入金壹圓　二百廿錠入金貳圓

東京京橋南傳馬町　大正製藥株式會社　振替東京三三三七三番
●全國有名藥店にあり
（62）

# ライオン歯磨

特長

第一　ライオン歯磨は成分の粉末が適度に細かい。
第二　ライオン歯磨の原料は精選の極度が盡してある。
第三　ライオン歯磨の調合配劑は最も學理的である。
第四　ライオン歯磨の成分は最も均等齊整してゐる。
第五　ライオン歯磨は大人にも子供にも適してゐる。
第六　ライオン歯磨は趣味高尚且つ實用的である。
第七　ライオン歯磨は歯科醫諸君公認の歯磨である。
第八　ライオン歯磨は信用販路共に世界的である。



東京本所外手町　ライオン歯磨　ライオン石鹸　本舗小林富次郎　支店大阪[illegible]　名古屋[illegible]
（40-6）

第五版

▲普通銀行利益 は當期に於て預金利子と貸出利子との關係上[illegible]利鞘の開きを生じ其結果[illegible]に關する利益金を減少するの結果となり遂に營業純益の減退を來すに至れり然れども當期は其前半に於て銀行の利益を增進せることに[illegible]殊株式の配當率著しく增[illegible]券自身の時價も大に騰貴せることを以て此種類に屬する益金の增加少からず加之一般取引は本年下半期に於て大に膨脹せるを以て此機に[illegible]中後期繰越金若くは積立金に對し前期以上の金額を計上するに至るべし次ぎに

▲特殊銀行狀態 を見るに其營業成績は不良なりと云ふを得[illegible]を警戒するの必要あり加ふるに米國の金銀禁出は我が對歐米爲替相場の引上を餘儀なくするに至り輸出爲替買持ちの場合に其實價の評定に手心を加へざるべからざる等種々の事情が錯綜し常期の純益金を[illegible]

▲[illegible]大に膨脹し來れる[illegible]も當期に於ては增資を斷行せるが爲め其繰越金若くは積立金を增加することは困難なるべく或は前期の配當を持續するにも相當の苦心を要すべし又勸銀及び鮮銀は比較的[illegible]府より特別の恩典に浴せると共に多少時局に對し犧牲的施設を强ひらるゝ關係もあり旁當期の業成績は市中銀行に比し幾分下位にあるを免れざるべしと[illegible]

# 京城日報

十日朝刊（朝夕刊併せて八頁）

| | |
|---|---|
| 本紙定價 | 一部金二錢五厘　一ヶ月金五十錢　[illegible] |
| 廣告料 | 七字詰一行[illegible] |
| 發行兼編輯人 | 奧田直毅 |
| 印刷人 | 小川三之介 |
| 發行所 | 京城太平通一丁目　京城日報社　電話[illegible]　振替貯金口座京城一二〇〇番 |

## 支那漫遊

### 鎭江と金山寺

蘇峰生

鎭江日淸汽船會社出張所より、陸上。予は幼時陳龍川の文を愛讀し、今猶其の京口の形勢を論じたる、

京口連岡三面、而大江橫陳、江旁極目千里、其勢大約如虎之出穴、而非若穴之藏虎也、昔人以爲京口酒可飮、兵可用、而北府之兵、爲天下雄、蓋其地勢然耳。

の一節を背誦せり。京口は即ち鎭江也。前遊の際、金山寺の塔を、暮靄の中に望み、焦山と甘露寺の打とを、落日の間に過ぎ、神殆んど飛ばんとせり。されば今回は萬難を排しても、鎭江に遊ばざるを得ず。况んや一障なきに於てをや。乃ち十一月九日午前十一時四十分、南京發の汽車に乗る。支那の汽車としては、最も淸潔也。途中黃樹青林、麥隴蔬塘の間を行く、渾て皆な畫裡に入る。而して村童が平氣に水牛の背上に居眠りしつゝある抔、到底日本にて想像の及ばぬ所なり。汽車は午後二時前に鎭江に著す。直ちに日淸汽船の中川君の案內にて、金山寺に向ふ。

金山寺は寺としては、支那に於て、恐らくは結構壯麗の一ならむ。何となく我が越前の永平寺を聯想せしむ。蓋し寒冷寺にあらず、鬧熱寺ならむ。金山の名空しからざる也。

予等は和尙に面會し、若干の布施を出し、東坡の玉帶を見たり。此れは殘缺したるを、例の世話好きの乾隆帝が、補修せしめたるものにして、其の玉版中に、乾隆御題の詩文を彫刻しあり。樓を繞りて、高塔に上る、孤標天外に跨り、長江脚下にあり。目を極むれば、江南江北、浩蕩渺茫、煙樹村墟、一望際なし。眞に長江の大觀也。轉じて康熙帝の御筆『江天一覽』の亭子に立てば、眺更らに妙也。寺中に東坡、佛印兩個の肖像あり。東坡が佛印と問答の末、其の玉帶を捲き上げらるゝや、詩あり曰く、

病骨難堪玉帶圍。鈍根仍落箭鋒機。欲敎乞食歌姬院。故與雲山舊衲衣。

是れ實に千古の風流也。乃ち數紙の東坡墨蹟搨本を購ひ去る。

此の寺院には康熙、乾隆兩帝、何れも六回宛駐蹕してる程にて、頗る彼等の意に適したりと覺えたり。予等もせめて一夕をと思ひたが、前程あるが爲めに、悵然として去れり。而して寺庭の銀杏樹は、全庭を蔽ふに黃葉したり。予は久し振りに銀杏樹を見、端なく我が青山靈堂門前の双樹を思ひ出せり。知らず幾片の黃葉を剩して、主人の還るを待つ耶。

### 甘露寺

予竊かに惟らく長江の大觀、金山寺に盡くと、而して甘露寺に遊んで、更らに其の上あるを知れり。甘露寺は金山寺と江岸に對うて、東西相ひ對す。金山寺は江の上流にあり、甘露寺は下流にあり。而して亦た江水を隔てゝ、焦山と相ひ對す。焦山は長江の中流に屹立する小嶼にして、瘞鶴銘を以て知らる。乃ち焦山北にあり、甘露寺南にあり、南北相ひ對して、其中を江峽となす也。甘露寺は北固山上にあり、山僅かに二百尺に過ぎざるも、頗に形勝の地を占む。寺は金山寺に比して、貧弱なるも、眞に所謂る長江の大觀は、此に在り。江傍極目千里の語は、此に至りては、金山寺亦た獨特の妙なしとせず。されど長江其物を鑑賞するに、完全に、痛快に觀るは、只だ此處にあらむ。故人が此處に多景樓を築きたるも、偶然ならざるを知る也。拙詩あり、

焦山萬古眠奔波。高塔金鼇碧落隣。北固雄圖秋高老。江南江北夕陽多。

金鼇とは金山寺の別名也。

秋江渺渺望無涯。返照金鼇塔影斜。三國六朝皆逝水。白帆如鷺入蘆花。

窓外の船夫苦力共、叫喚、喧躁、殆んど人をして推敲の暇なからしむ。乃ち泉筆を投ず。

大正六年十一月十日午前六時鎭江日淸汽船碼頭舶の社宅二階の一室に於て。

## 朝鮮古墳の變遷（八）

八木奘三郎

（五）副葬品と模造品

副葬品とは死者生前の遺愛品若くは慣例上必ず供ふ可き物を墓中に納めたる類を云へり、勿論古墳なるものは凡て始めより遺體あるに非ず中には記念墓の如きものもあり、又分葬の類もあり、例せば日本武尊の妃弟橘媛の御陵墓は身海中に投ぜられし爲め、後日遂に漂へる遺品を以て墓中に埋めたりと云ひ又日本武尊は神靈白鳥に化して三所に留まりし爲め其御陵も亦三箇所に築けりと云ふと同樣、是等は後世紀野山の諸大名墓を以てせし分葬を意味せしものあらんか、此外支那朝鮮等の帝王陵中には多少別の發掘を恐れて同時に數陵を築けりとの說が傳ふるものあり、是等は一の擬陵とも云ふ可きか、斯く古代の陵墓には數樣の別あるを知るに足れども、副葬品は多少に拘はらず皆な收發せし譯ならん、但し此副葬品には初葬當時の儘なるも、改葬の際若くは修理の折に換へたる分と種々の別あるも、概して云はゞ初葬の儘なる例を多しとなせり、是等は一々詳記する遑なきも、單に副葬品を最初より動かざるものと見るは誤れるに依り、其一例を舉げて、世人に觀察、論斷等の過誤なからんことを望みし次第なり。

又模造品と云へるは儀式上墓中に納む可き現物を節約し、又は其古意をも捨てずして、或は小形となし或は其原質を變更し單に形狀のみを模せし類を云へり、此實例は朝鮮の地に至て少しと雖も、日本には頗る多し、顧ふに將來博く探り洽く求めば支那朝鮮と雖も相當に發見することある可し。是等凡ての副葬品が當時の文化を知り、又其社會狀態を察する助けとなることは別に多言を要せざれども猶其外に民族相違及び其移動、分布、若くは相互の關係等を明にする材料ともなれば其如何は深く注意せざる可からず、例せば歐羅巴に於ける石銅鐵の三時代を確め得たるは他の諸品も存すれども此古墳の研究に[illegible]に因て斯定を下し得たる[illegible]して朝鮮に於ける先史時代の古墳は將來東部民族の移動を知る資料となり又樂浪、帶方の古墳中なる副葬品は日鮮文化の發達を探る[illegible]者となり、又新羅統一時代の陶器は直て支那銅器との連鎖を保ち又高麗時代の青白磁は支那作品の缺を補ふが上に其民族の技量を察するに足る可し、其他日鮮の曲玉は兩國古代の關係を明かにし、又埴輪の如きも（是は副葬品に準ず可きものなり）支那の影響にあらざるやを疑はしむる有樣となれるにより、此副葬品は古墳の內外に存する區別は措て論ぜず、其研究者は勿論のこと、他の觀察者と雖も之に依て各自の意見を述ぶる價値と必要とあり、今日は副葬品の考證を單に發掘者に一任し、其人も亦之を自己の專有物の如く考へ居れども、右は弊害ある謬見にして、且つは學問の幼稚なる時代風潮を表する次第なれば今後は各自の意見を披瀝して事實の眞相を明にすること最も肝要なる可し。


## 京日鮮滿便覽

### 大正七年一月元旦京城日報附錄

◇京日鮮滿便覽は四六倍版百餘頁の製本美麗高雅なる小册子にて世間普通の案內書等の無味乾燥なる材料正確細大を漏さず一目鮮滿の範圍たるが上に多數の鮮明なる寫眞版を挿入し鮮上更に花を添ゆ

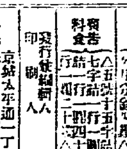
◇鮮滿の事情を知らんと欲する人鮮滿旅行をなさんと欲する人には特に一時も放つべからざる必要書

◇月極讀者に限り無代進呈す本誌は十二萬部の印刷配布をなすが故に其廣告の有効なる事は本社の保證する處也購讀希望者廣告依賴者は速に申込べし

京城日報編輯局地方部調查編纂


## どうして

布施生譯　九



『お話はそれきりですかな、それなら私は失敬して網打の所へ參りたいと思ひます。いや、今日は大事な[illegible]

[illegible]

[illegible]離れた、と見た阪は隙さず谷女が今迄隱してゐた抽斗を拔と引開けてみると下には上品な傳茶の縮緬を丁寧に疊んで其傍に模樣物の金糸で縫をした半襟が藏つてある、そして其上に淺びて分らなくなつては居るが赤い薔薇の花束らしいものが大事に取つてあるではないか、著物や半襟は何でもないが花束だけは不似合で其爲全體が墓から掘出した紀念の品のやうに不氣味に思はれる、阪も國栖も思はず一足引いて一齊に谷女の顏を凝視つた。

谷女は今迄とは打て變つた沈著やうで『私にも分りませんわ』と斷りながら直に言葉を繼ぎ『此著物やなんかも餘りあの娘には上等過ぎるやうでございますがね、しかし矢張り惠美ちゃんの品なんでございますよ、當家へ參ります時から持てゐたのでございます、之で見ましても私の申上げた事がお了解でございましやう、惠美ちゃんは乾度雌の娘ではなくて素性の良い人に違ひございませんよ』阪はふんと口の中で呟きながら改めて其著物や半襟に目をとめた、それから取除けた手巾を鬘のやうにかぶせて國栖や谷女が其品物に一本觸れる間もなく邪魔と捕まへ切つた。五分後には阪は何時にか其室に居無くなつてゐた[illegible]

[illegible]

こ同時に此部屋で裝飾はこれ一つだなと直に目についた肖像畫の前に敷棄てゝあつた、其衛は美しい何だかつんと濟ましたやうな其顏、何處か人を惹付ける處の有る若い婦人の肖像で、眞紅の綿絹を被衣のやうにして零れる眞黑な額髮の下から燃ゐるやうな目をぱつちり開いて見せてゐる、國栖は見るより『はゝあ、お妹さんだな』と思付いた『阿母樣にしては餘り當世風すぎる』。

○碧蹄館懷古　田淵黍州

秋風吹冷碧蹄村。寂寞原頭戰迹存。一路叢蟲鳴不斷。低徊歸去月黃昏。

○同上　茂泉鴻堂

草亂碧蹄館。茫茫三百年。劍光秋露閃。旗影白雲連。屍積掩高阜。血流腥澗泉。西風吹木末。山角夕陽懸。

▼俗謠『若水』▼ものは付『嬉しい物は』▼一口噺『新年』▼下句付『初[illegible]に困るらい』

紙（〆切）十二月十五日（注意）每に別用紙に認むる事（京城日報社編輯局新年文藝係宛）迄郵送する事 するも可し（用紙）葉書又は同型の[illegible]


商業登記公告

一株式會社朝鮮商業銀行平澤支店 [illegible]拂込濟了ニ付キ[illegible]變更シタリ

右大正六年拾貳月五日登記

京城地方法院平澤出張所

[illegible]民籍[illegible]業

大正七年 國民日記

定價五拾錢　郵税八錢

發行以來頗る好評注文殺到す此の際至急御用命を乞ふ

[illegible]價壹圓

京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部

取次販賣店　大阪屋號　巖松堂　日韓書房　ウツボヤ書店　各地京城日報支局各書店

謹告

拜啓寒冷の折柄各位益々御淸榮の段慶賀此事に候陳者每度御引立に預り難有仕合に奉存候却說弊店儀豫而新築中なりし店舖落成致し候に付き本日移轉從來の通營業仕候一層勉强御用命相伺可申候條何卒倍舊御愛顧の程偏に奉願上候敬具

十一月七日

京城永樂町二丁目　銘酒一鶴發賣元　本莊酒店　電話六五四番　振替口座京城六二〇番

十二月一日ヨリ三十日マデ　破天荒の大景品附

歲暮大賣出し

◆お正月用最新柄著荷◆

◆つり切見切反物澤山◆

□空籤なし□

今年中御禮の爲めに　御買上高金一圓每に景品券進呈

□景品は……即時現品と御引換御渡申上ます

主なる景品は　羽二重三枚重大蒲團一組、西陣御召、仙台平袴、朱珍丸帶、債券、大形姿見、二枚續毛布　其他

京城本町二丁目　㊀丸一吳服店

# ●南方討伐決定
## 段氏を司令官に戴かんとす

天津會議の結果は愈々十一萬の兵を以て征南軍を組織するに決し張懐芝氏は急遽山東に歸り準備成り次第出發す可し其兵は差當り奉天、安徽二個師團、直隷、河南、山東各一個師團山西、陝西、熱河、綏遠各一旅團なり馮總統は此の報を聞くや段芝貴氏を天津に派して約一週間の猶豫を求めたるも督軍連は之に應ぜず強硬の態度を持し居れり督軍連は段祺瑞氏に出征軍總司令たらん事を懇請せり(北京特電)

## ●王政府畫策失敗

政府は密使を武昌に送り荊州襄陽の獨立を取消さしむ可く荊州方面は十萬元を以て買收せんとせるも石星川氏の爲め拒絶されたり(北京特電)

## ●政府妥協に意あり

王純氏より南北調停の稍具体的條件を提出し來れる爲め政府は又復妥協に逆戻らんとす(北京特電)

## ●哈爾賓へ吉林兵

哈爾賓問題に對し支那政府は日英兩國公使と商議の結果吉林將軍に宛て同地に向け速かに出兵す可しと命令せり(北京特電)

## ●南軍岳州攻撃說

南軍は武昌に迫らんとし加ふるに同地民黨の獨立運動進行せる爲め如何なる變化を來すも知れず且つ南軍の岳州攻撃說傳へられ人心恟々たり(漢口特電)

## ●無線電問題紛糾

目下日英兩國公使より嚴重抗議中なる丁抹無線電信會社との借款五百萬元の協約事件は政府は一切の責任を契約當事者たる海軍總長劉冠雄氏に歸し其の返答曖昧なり當契約は既に本契約に調印し三十箇年間支那の無線電信の權利を丁抹の會社に屬せしめたるものなるが政府は抗議を受くるや大いに狼狽し契約を取消さんとするも丁抹會社は既に十萬元を渡したれば斷じて取消さずと主張しつゝあり結局該事件は益々紛糾し劉海軍總長の辭職を見るに至るべし(北京特電)

## ●沒收敵國船分配

目下抑留中の獨墺汽船は當地にて左の如く分配されたり(上海特電)

米國二隻、日本三隻、伊太利一隻、佛蘭西一隻、英國二隻

## ●ホ長官支那に頼る
### 護衛兵急派=外交團注意

哈爾賓過激派の態度危險を帶び來れるより東清鐵道長官ホルワット將軍は長春の支那官憲に對し護衛兵一員の派遣方要請する處あり支那側にては直ちに文武官協議の上九日正午發の東清列車にて步兵四百五十名を哈爾賓に急派せりホルワット將軍は支那兵に依りて過激派の盲動を防止せんとするものゝ如く此の行動は外交團の注意を惹き前途暗澹たり(長春特電)

## ●合同紡績成績

合同紡績會社本期成績頗る良好にて……なし來期決算に當り現在の二十圓株券を五十圓券に引直すと共に增資する事となるならんとの觀あり

## ●第二次海軍更迭

海軍にては來る十七日頃第二次の更迭を行ふべく目下加藤海相の手にて詮衡中なるが小栗、竹下兩中將、山路司令官等の轉補を見るべし(東京特電)

## ●明年大演習 關西平野に擧行

大正七年度秋期大演習は七個師團を以て兩軍を編成し第四師團に豫備一個師團を編成せしめ近衛砲兵騎兵隊も參加し關西平野にて大々的に擧行さる可し(東京特電)

## ●支那記者團通過

支那新聞記者日本視察團の一行は東京、大阪等各新聞社其他の視察を了りて歸途に就き九日關門を通過し長崎へ向ひたるが十日長崎出帆の汽船にて歸國す可く各方面に於て盛なる歡迎を受けたるを感謝し居たり(福岡特電)

## ●福原司令官

福原鎮海灣要塞司令官は十日午前十一時十五分發列車にて同日午後三時四十分發歸任の途(安東縣特電)

## ●大倉男動靜

大倉喜八郎男一行は十日午前十一時十五分奉天發安東縣に來着、市中視察の上同日午後四時より官民有志七十餘名の歡迎會に臨み同六時半新義州に向け出發の筈(安東縣特電)

## ●堀工務局長

堀滿鐵工務局長は八日朝朝鮮より安東縣著、一泊し九日午前十時半發歸任の途に就けり(安東縣特電)

## ●德富監督通過

德富本社監督は支那漫遊の歸途九日午前八時二十分大阪驛通過歸東せり(大阪特電)

## ●露國益々險惡
### 今後注目の要あり

露國最近の形勢は依然として混沌暗澹を極めたる裡にも過激派の勢力は益々伸長せんとし最近露都に向つて跋扈跳梁せんとし最近の外電に依ればレーニン政府に依りて任命せられたる總司令官クリレンコ少尉はモギレフなる總軍司令部大本營を占領し且つ市賢上の總司令官ヅホーニン將軍亦既に擁死せる旨を布告せりと云へり戰線の全露軍十六軍中レーニン政府を支持せるものは僅に三軍に過ぎずして他の十三軍はヅホーニン將軍側に加擔しつゝありたるにも拘らず突如として此事ある所か腑に落ちざるやの觀あれども素々露軍の大部分及び多數下層民は無學文盲にして理得的判斷の能力なく只羣衆心理により煽動家の言說に附和雷同するものなればクリレンコ軍の大本營攻圍振りに避易して立處に降伏するに至りたるものなる可く露軍の素質より觀て必ずしも不可能の現象と云ふ可らず

▲選擧の結果 憲法議會に對する議員の選擧は大體終了を告げ其の結果は過激派の失敗に歸したりとの情報あるも議員の頭數色分けのみを以て直に穩健派の爲めに樂觀するは早計なり何となればレーニン政府が其の掌握せる兵權を濫用して議事堂と議員とを包圍脅迫し議會の大勢を覆へすが如きことは過激派の常茶飯事に屬すれば然れども過激派が政權を手にし乍ら尚且つ憲法議會の選擧に敗れたる一事を以て觀るも過激派の實勢力が案外微弱なるを窺ふに足る可く有識有產階級及び哥薩克兵隊の如きは勿論、戰線軍隊の大部分、農民其他一般下層民の多數も民主主義に反對なるは勿論なれどもレーニン政府の執れる極端なる手段即ち聯合國に對して背信若くは敵對的なる單獨行動に出でんとしつゝある態度には反對なるが如し(完)

## ●支那關稅引上と紡績業
### アグレン氏談 支那總稅務司

支那の關稅引上げは日本紡績業に大打撃を與ふべしと信ぜらるゝも予の觀る處にては然らず、關稅引上げの結果、支那內地に於ける製造業の發達は必ず之を期待し得べく、而して其の盛んなるべきものは綿絲紡績業なるべきを以て之に要する棉花栽培は有望なる事業たるべし。

▲發達を見ん 棉花輸出入に對しては、關稅の何等の加減を施すにあらざれば、關稅引上げの直接の效果として數ふべきにあらざるは勿論なりとし、依り關稅引上げの直接の效果として數ふべきにあらざるは勿論なり

支那の輸入品に對しては各國との條約に依り、五分の關稅を課することゝ成り居れるが、條約締結の當時協定されたる評定價格は、爾來物價の騰貴其他の理由にて、今日に見て頗る低廉なるものとなり

▲頗る低廉なるものとなり隨つて之に對する從價五分の輸入稅は其實際價額の三分內外に相當するに過ぎず、依て支那政府は之を現實に五分の課稅を爲し得る樣要求する次第にて、適切に云へば條約に依る既約權の恢復といふべきにて關稅引上げにあらずして、幸に締盟各國の容るゝ處と成らば、支那政府は、歲入七百萬兩の增收あるべき見込みなり、而かも所謂關稅引上の爲めに、幾分にても輸入の減少を來すべく想像する者あらんも恐らくは中らざる可く、現在支那

▲輸入貨物は皆是れ必需品のみ、縱し支那に於ける需要者が關稅の關係より幾分の負擔を增すことありとも、素と稅率其のものが現實五分に過ぎざるに於て、爲めに需要を減ずるが如きこと有るべからず

豆類の輸入に關し特附を宜するや度等は未だ明瞭ならざれども要するに英國と同一の主旨に出でたるものなる可しと想像すべき理由あり……黑鉛、錦其他を合せて約八萬噸なるを以て太平洋に於ける船腹調節に於ては約千六百十四萬圓に達するも輸入品の內主として消費せらるゝものは手芒、豌豆等にして或は……

## ●在監囚徒減少

十一月末に於ける朝鮮各監獄の在監者は受刑者一萬一千二百零一人、刑事被告人一千八十三人勞役場留置……

## ●慶北棉出廻高

慶尚北道管內に於ける本年度陸地棉生産高は第四回作柄に於て三百十四萬斤を豫想せられ居りしも其の內幾分は自家用に使用せらるべきを以て實際の出廻りは二百萬斤內外なるべく而して目下百五十萬斤の出廻を見居れり……

## ●慶北乾繭場數

慶尚北道最近の調査に係る慶北道內乾繭場數は官廳及び組合所有四十四箇所個人經營のもの四十六箇所にして其總乾繭行程四百八十七石九斗なるが尚明年度に於て十箇所を新設する筈なりと(大邱)

## ●江景客月檢米

忠清南道江景米穀檢查所に於ける十一月中檢查成績を聞くに三等二萬六千三百九十叺不合格六十二叺にして合計二萬六千四百五十二叺に對する前年同月の檢査成績は特等五十叺……

## ●咎月群山貿易

十一月中に於ける群山港輸移出入貿易額……

## ●敵攻擊頗る猛烈
### 伊軍陣地遂に奪取さる

六日發伊國公報=九日維也納より=アシアゴ高原にて戰鬪猛烈に再開され敵は前日アシアゴ、カ・ロ及びバデネュースの間にて優勢なる地點を占領し全力を擧げて攻擊を開始せるが敵は正面攻擊を斷念せるもカステルゴンベルト山及びメレツテデガリオの巨大なる堡壘を背後より奪取せんとせり戰鬪は終日激烈に繼續したるが敵の此の大々的奮鬪に依り我陣地は一歩一歩敵の爲めに奪はれ續いて後方守備線のみを守備するに至れる際我軍は戰線撤退の命令を受けたり(羅馬電報)

## ●墺匈軍伊軍襲擊

墺匈國兵はメレツテに於ける伊太利軍の廣圍なる陣地を襲擊し一萬の捕虜六十門の砲を鹵獲せり(倫敦電報)

## ●露獨墺戰鬪中止同意

獨墺國及び露國は戰鬪中止に同意せり(倫敦電報)

## ●對墺宣戰に署名

大統領ウイルソン氏は對墺匈國宣戰布告に署名せり(紐育電報)

## 百鬼百種

……

## 人事消息

▲小西春雄氏(鎮海灣要塞司令部)九日夜着京▲アグレン氏(支那總稅務司)同上▲橋爪令作氏(忠南道技師)同上▲ランドン氏(米國大使館書記官)同上▲飯島寛一氏(全南道技師)同上▲本田幸介氏(水原勸業模範場長)九日夜入京▲藤原夫助氏(同場技師)同上


朝鮮彙報 大正六年十二月號 一部金七圓
口絵 ●税關長に對する總督訓示 ●日本朝鮮及獨逸に於ける人口動態統計に關する觀察 ●朝鮮の燃料問題(其一) ●最近の法律思潮 ●彙報 大正六年自七月至十二月附總目錄
取扱 京城本町 販賣店 朝鮮各地の書店に販賣す ウツボヤ書籍店

日本一 歐洲戰局の將來及其結末 志賀重昂 / 日米共同宣言 / 鐵の世界 鈴木白葦 / 回顧八十年 大隈侯爵 / 日本一時評 浮田博士 / 意外錄 / 小唄供養 小杉天外 / 大阪陣 福本日南

ドンナ素人にもスグ上達する 尺八新式獨習錄 無代進呈 尺八研究會

京日案內 職業 特約店募集 / 純金指環御安製 友助堂時計舖 / 讓店 / 三州旅館 / 尺八指南所 / 佐藤都令 / 貸家 白水 / 貸倉庫有り 高木商店 / 給仕募集 日韓印刷會社 / 恩給年金立替 國江商會 / はねつき 柔術道場 / 新古ミシン賣買 楠商店 / 恩給年金立替 西村商會

[illegible]けたるが如くにして[illegible]前類の四割より一割増加の五割[illegible]さながらべく尙ほ一部に於て同社増[illegible]賣說傳へらるも本期は現狀の儘と[illegible]

## ▲豆類の禁入　豆相場低落

殊に英國が特許に依らざれば輸出不可能となりたる事は既報の如く而も其特許を爲すに至りたる理由並に其の程[illegible]しものなりと唱せられつゝあるも昨年度に於ける日本並に支那方面よりの輸出貨物は米、油類、豆類

**▲豆類輸出高**　而して我國の豆類輸出總高は戰前に於て約四百萬噸内外に過ぎざりしに昨年度[illegible]而も一層米國への輸出主たるものと爲れりと云ふ

**▲豆類消費狀況**　從來米歐[illegible]の豆類は米國より更に歐洲に輸出せらるゝものなり然れども米國に對する豆類の供給は主として我國[illegible]を及ぼし恰も端境期に際し英國の輸入禁止と特許の報せられた當時の如く出荷旺盛期に及びて活氣[illegible]

[illegible]の全南棉花各郡の出棉總數量は實三十四萬にして今猶の出棉價格一千百三十八萬七千八十七斤此價格二百四十三萬五千五百四錢　一千四十萬四千百七斤なりと(木浦)

# ☒巳年の終りに　毒蛇捕りの話し

## ―ダンクンと警察の關係―

昔しは刑事の手先きになつたり乞食の追拂ひ役を勤めたり……

ダンクンと警察とはさういふ風に深い關係が結ばれてゐるから彼等は警察の力を恃みに時々惡事も働くのであつた。警察でもさういふ弊害を知らぬのではないけれども彼等の犯罪といふのは極く些々たるものでそれよりも

**警察の大役を**　彼等が勤めてゐるから　大概大目に見てやつた

すると彼等は益々増長して接渡ひ掏摸などを働いたり店に往つて物を強請るのであつた。そして米屋に往つては米、薪屋に往つては薪と云つた風に何十人といふダンクンが群をなして毎日南大門内の市場や梨峴の市場に往つて日用品を貰つて來るのであつた。店の方では彼等が來ると五月蠅いから文句なしにやつて了ふのが一つの習慣になつたそして彼等が貰つたり掏摸つたりした物は皆ウトーム(?)に持つて來てその親分の前に並べると

**親分は山の如**　く積み並べた日用品　を自分が五六割取つて後は

皆に分配してやるのであつた。さういふ風であつたからその親分といふのは懷手をしてゐて、自分の思ふ存分豪奢を極める事が出來たそれでそのダンクン或はダーユといふのは朝鮮語で掏摸る者といふ樣な意味であるさうだ。しかし又普通の家でも婚禮だとか葬式の時には他の泥棒や乞食を防ぐために彼等を門番に傭ふ事もある。そして彼等が門番をしてゐると、他の乞食は寄附きもせずもしヘマな奴が物でも貰ひに來やうものなら彼等が寄つて集つて半殺しに毆るのださうだ。しかし

**警察の方でも**　方針を替へて彼等と　云つて決して用捨しなく

なつた。それで彼等も大概は正業に就き、後繼人かとたとその孤城を守つてゐるがしかし今はそんな掏摸、接渡ひ等はせず、サルモサの商賣をやつたり人夫になつて働くそうだ。私は『皆を監督するには隨分骨が折るだらうね』と訊ば『ナーニ骨の折れる事は一寸もありません。昔からちやんと規則がありまして其規則に外づれた奴は少々毆りますが大抵よく規則を守つてゐます。あすこに規則が掛つて居ります』と

**四十越の男が**　指すところを見上げると長押に古い額が掛つてゐた。そしてその額には、ぐちや/\になつた朝鮮紙に金釘流の諺文で

規則

一、圈内に在る者は一切酒を飮まぬ事

一、圈内同志で決して喧嘩させぬ事

一、親分子分を問はず一切圈内に於いて博奕を打たぬ事

一、以上の規則に外づれる者は子分は圈内に屆金二圓を取り且笞十度に處する事但し親分が規則を犯した時は金二圓の外笞刑の代り金一圓を收める事

年　月　日

と書いてあつた。そして一番終りには又註釋が付いてあつた。『一體

**酒といふもの**　は人間の本性を忘れさせ酒に醉へば上下老少を辨へず亂暴を働いて圈内を騷亂するものなればかゝる飮物は決して口にしてならぬ。又博奕といふのは他人の金を取るために吾々圈員の[illegible]いかにしかるに吾々圈員は親こそ選へども互ひに義を結んだ親身の兄弟よりも親しく暮して病氣をすれば互ひに身を盡して看護をし死ねば葬式までしてやる間柄ではないか。それだのに仲間同志で博奕を打つといふのは一體仲間の金を取るつもりか』と如何にも理に叶つた事が書いてあつた四十越の男が笑ひながら『イヤ生憎でもありましたら又入來して下さい、、、』といふ聲を後にしてその家を飛出した。(完)

## ●電流を人體に應用して　諸種の病氣を治療する　總督府醫院で購入したヂアテルミー機

今回總督府醫院で購入した『高周波透熱療法』即ちヂアテルミー機は新進治療の福音であつて同院では一般の希望に應じ此の機械を用ゐて治療の需めに應ずるさうである、一體ヂアテルミーとは電氣療法の一種で

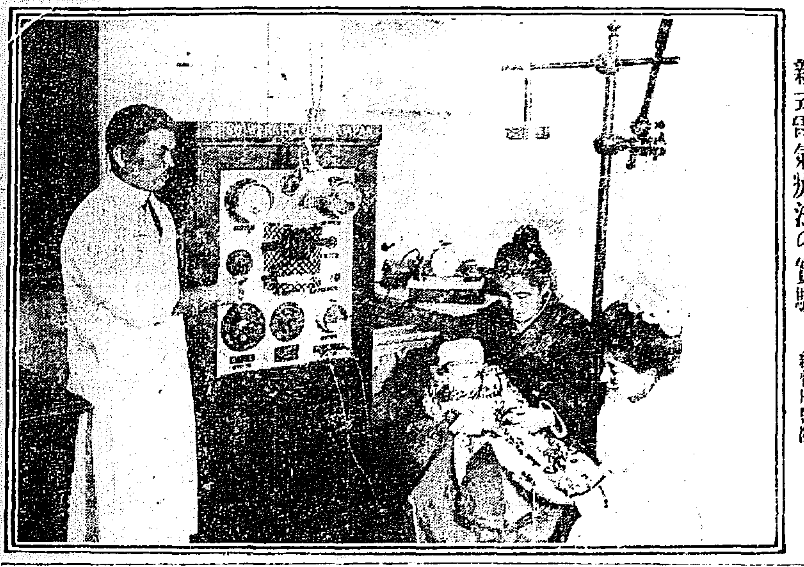
**◆大量の電氣を溫**　に變じて醫療上人體に通ずる方法であつて十七世紀の末葉電氣技師ニコラ、テスラの發見せるテスラ電流を應用せるものである普通電氣の療法に用ゐる電流は『低周波電流』と云つて最も多量に用ひても二十五平方仙迷の橫斷面を有する電路(人體)に僅に二十五密アンペアー位用ひても痛みを覺わて耐へられないのに此のヂアテルミーでは少なくとも五百多きは二千五百密アンペアーの強電流を人體に通じても

**◆何等苦痛なく却**　て蒸さるゝ如き溫き快感を覺ゆるのである而も其の溫かさは體の内部から始まるのである、其の溫度は誠に心持の好いものである。其の上昇は前にも云つた樣に用ひた所の深部(卽ち體内)から溫まり始めて體の表面の方へ及ぶのであつて必要なる一局部又は廣く全身に隨意に用ひられるのである。溫浴、電療浴等の如きは外方より溫まるのであるから皮膚が耐へられない位の

**◆溫熱を覺にても**　充分深部に及ばないがヂアテルミーでは溫の外に肉體を構成してゐる組織細胞の分子内に歸伸の靈妙なる作用をなさしめることも出來るのである、從つて體内から溫度が上昇し其の靈妙なる作用によつて罹患部にゐる溫熱に對して抵抗弱き黴菌は數回乃至十數回の使用で死滅せしむる事も出來るのである故に

**◆其の病氣治療の**　應用は廣いもので大體次の如くである。卽ち關節炎、種々の消化器病(就中慢性胃腸病)及び生殖器泌尿器の疾患、例へば子宮膣炎、尿道炎、淋疾攝護腺炎等其の他電氣及び熱によりて効を收め得るものは澤山ある就中リウマチス、神經痛又は麻痺症、特に多淫による陰萎等を單獨に又は從來行はれたる方法と併用して治療致するときは血液の循環が良くなつて疼痛が鎭まり腫脹が除かれ罹患部の

**◆病的組織を破壞**　し又吸收を促し病勢防止又は快癒の効を收めることが出來るのである斯樣に諸種の病氣治療に内科と言はず外科と言はず婦人科にも皮膚、泌尿器科、耳鼻咽喉科にも廣く一般醫家に熱狂的に用ひらるゝに至つたのは此の機の發明者アルソンバール、ツァイネツク、ベルンド及びナーゲルシユミツド諸氏の賜である(總督府醫院整形外科主任醫員談)寫眞は[illegible]下氏が此ヂアテルミー機を用ゐて小兒の整形術を行ふ所を撮影せしものなり



新式電氣療法の實驗　―總督府醫院―

## ◉鯨廿九頭を捕獲す

九日午前五時千葉縣銚子町沖に鯨の大群打寄せ漁夫等は石油發動機船にて出動七時頃迄に捕獲せるもの二十九頭に達したり(東京特電)

## ◉世外侯遺品の入札

故世外庵井上馨侯が多年蒐集して來た書畫骨董品六千餘點が來年の春頃兩國美術俱樂部で賣立てられる事になつた、同侯に入る如く我人共に許した

**▲鑑賞家で**　從つて其所藏品中には素破らしい結構なものが多いうするといふ意味でもなければ又今回の賣立は別に金に窮してゞはなく元より道具屋にせがまれてやるのでもない、只何分にも六千點といふ多數に上ると是が保存にも困るので其中の一部分を區分するのださうで其處で此度頃から近來入札界の好況に過られたので同家の道具掛池内誠齋氏を筆頭に故侯御在世中より

**▲お氣に入り**　の某道具商等二名に託して家藏品取調べといふ名目の下に前記六千餘點を天地人の三樣に分類し此中故侯の愛玩措かざりしものだけを除いて市場に出すのであるが惡いものばかりを賣出す事になるときまつて羅市の威があるので逸品をも加へて約二千點位を選出する筈である若入札品を

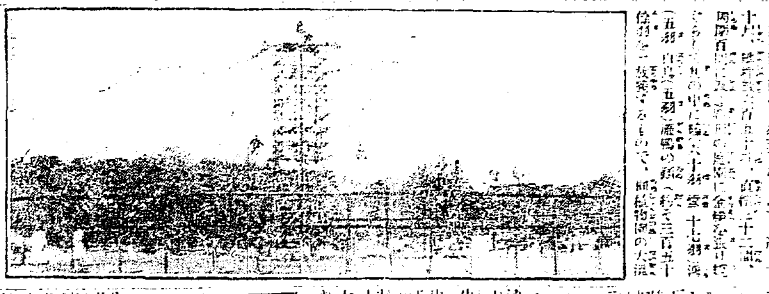
**▲二千點と**　すれば赤星家の二度にできへ前後三回に開いた事でもやらねばならぬといふ何れにしても來年の入札界は此入札が空前の相場を呼ぶであらうと今から噂とり/\である(東京)

## ◉肝膽相照して　炭鑛に熨斗を　中村精七郎氏

鎭南浦中村精七郎氏は九州の鑛業家中島德松氏及び前代議士吉田磯吉氏と三名兄弟分の盃を汲み佐々十五分の會見にて中村氏が中島氏の爲め自己の所有する四千坪の炭鑛及び鑛區を提供し中村鑛業部を廢したる由(大阪特電)

## ◉白耳義窮民　救濟演藝會

白耳義窮孤兒救濟會演藝會は既報の如く八日午後八時より朝鮮ホテルに於いて開催せられたるが開會に先ち李王職音樂隊の奏樂、付志の能狂言、ゼラー氏のヴイオリン獨奏ウヰルソン氏令孃の舞踏ミス氏の唱歌第二部にてはラングベルグ夫人の獨唱、ウヰルソン氏令孃のスコツチ舞踏、テーラー夫人の唱歌、男聲の四部合唱、第三部にては活動寫眞等あり官民有志同夫人各國領事を始め在留外人等多數の參會あり亦同會の委員參會者に造花を賣れるなどありて盛會なりき



## 昌慶苑内の水禽室

此は明春[illegible]出來上るべき李王職昌慶苑の水禽室で[illegible]高さ六十[illegible]と共に東洋第一の大規模なる水禽室であります。殊に丹頂鶴が九羽まで行かずとも中空に羽を伸ばして飛翔し或は苑内の古松に羽を休め又は池汀に餌を漁り拾して自由自在に動き廻はる樣は定めし外に見られぬ壯觀を示すであります。而して更に園外の森に及んで苑内の櫻花爛漫たるとき此處に遊ばゞ眞に武陵桃源の春を味はふ事が出來るであります。

## ◉支那漢江氷結

漢江(湖北省)下流氷結し河口の各汽船は避難乘客を滿載し居れり(上海特電)

## ◉征虎軍消息

山本征虎軍一行は九日神戶に來着せるが同午後七時發東上せり(神戶特電)

## ◉ハーデー翁

ハーデー翁は九日長崎に着せるが十日東上の筈なり(長崎特電)

## ◉火災豫防注意

京城本町警察署にて火災豫防の爲め十一月十二日より管内各戶を臨檢して溫突の改造を命じたるもの九十、新設を命じたるもの百七十二、同じく修繕方を注意したるもの一千五十七、引火性の物品に就き置場の位置を變更せしめたるもの一千八十三、消火器を設備すべき樣注意を與へたるもの二十八、灰藥場の位置を變更せしめたるもの三百五十一、洋燈の石油壺が硝子製なるを金屬製に改めさせしもの四百十八、暖爐の位置變更十二、其の他注意戒飭を與へたるもの二百七十八にて合計三千四百八十九件に達せり

## ◉工場から鉛棒

龍山元町三丁目崔又吉(二〇)は十一月十日より前後二回に鐵道工場内に忍び込み分銅用の鉛棒十三個(一個四十斤)を窃取し鮮人古物屋に五十五圓に賣却して豪遊中を龍山分隊の手に逮捕さる

## ◉尼寺の燒失

全南小金剛山の稱ある長城郡白羊山尼寺地藏庵は先月三十日午前十時溫突より失火し左記三十坪の同庵建物を燒失し附近山林に多少の被害あり大事にも至らず損害約一千圓位なるが同庵主崔道俊尼は二百圓を金山より六百圓を支出し直ちに再建に着手すべしと(木浦)

## よわさうわさ

▲岡本鐵道局技師が池を隔てゝ大豹と睨み合ひ韋駄天の如く逃げたと云ふ奇談があるが、京城に知れたのは此の春の話しだが▲事は北鮮行のためだ▲何でも岡本氏が淸津の建設事務所にゐた此の四月部下兩鐵を隨へ淸會線の若坪で下車附近の池で切りに小魚を釣つてゐた▲フト、技師が餌でもかへた時らしい……氏も記憶せぬと云ふ……顏をあげて向岸の巖上を見ると、そこに大豹が首を伸べて立つてゐた▲大豹の視線と技師の視線がハッと合つた時、技師の面色は土の如く變り、釣竿も魚籠も帽子も捨てた儘、何も云はず、宙を飛んで、線路の方に逃げたさうなが部下の二人は豹には氣がつかなかつた、しかし岡本氏が突如走つたので、自分も走らねばならぬ事と思つたらしく、ヤハリドン/\岡本氏の後を追つたが、事情が分ると三人面を合せて無事を祝し合つたさうな▲コレが大豹を打つたのなら、岡本氏の事だから長電を京城に發したらうが、豹に走らされたのだから氏は沈默を守らせた▲其後岡本氏は本府に轉じたし、もう話してもよからうと思て部下の某が鐵道の某氏に其時の岡本氏の狼狽方を申し進じたのが兎耳子の耳に入つた

▲廣告▽

賀　大日迎　黄金町[illegible]　[illegible]商店

漆器　静岡　丸三漆器店　京城本町二丁目

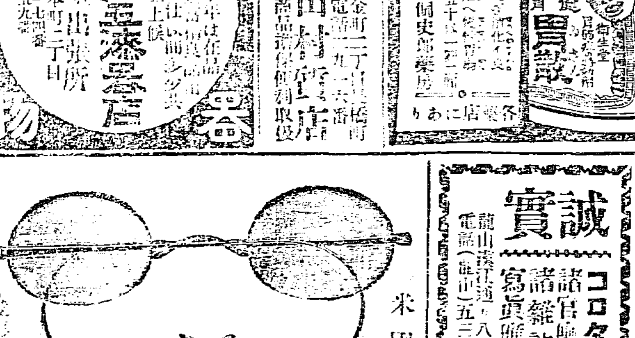
淋病新藥　ツヨール　製造元東京市日本橋　ツヨール商會　發賣元大阪道修町　田邊五兵衛

五人乘自動車　壹千八百圓　乘合自動車　貳千百圓
フオード自働車會社と特約を結び左記の定價にて明年度豫約販賣の御注文に應ずべく候
歐洲戰亂の爲め船腹不足に付此際至急御用命の程希望仕候
フオード自働車會社特約店　京城旭町二丁目　セールフレザー會社　支配人　ダブリユー、スタイルス

愈々いでたり！
萬年筆に倦た！普通ペンは圓滑ならず！と云ふ方は？
米國製特許創案　自働インキ含裝置『パインビジネス』ペン　定價金壹圓九拾五錢
進歩的經濟的文房具の需要日に加わり平常使用の『ペン』先に金製のものを使用するの最も適切なるを俟ず
特殊創案のパインビジネスペンは金ペン先耐久力が斯せらるゝのみならず一度『インキ』を含ますれば數頁の使用に耐ゆる理想的の文具にして各銀行、會社、官廳より御用命陸續たり
發賣元　京城日報社代理部　振替京城三〇〇番

かき飯
多少に拘はらず御用命次第遠近を問はず至急出前可仕候
會席御料理仕出し　京城南山町一丁目　(元瓢亭跡)　萩之家　電話一八七四番

誠實
コロタイプ印刷。繪ハカキ製造
諸官廳各學校。諸會社記念寫眞帳
諸雜誌口繪類　コロタイプ印刷
寫眞版用各種年賀狀。繪はがき類
門田寫眞製版所　龍山漢江通り八番地　電話(龍山)五三六番



米國製　金張眼鏡　急告
京城本町一丁目(郵便局横)　中村眼鏡店

# 櫻御殿

第九十一回　大阪　霞の家主人

## 雙生男子（四）

「樋では無い、久しう初瀬どの、お消息を聞きません、御變らせでござりませぬか」

芳野は友を思ふ心が深かつた、初瀬が御殿を退つてから、日毎夜毎に安否の上を氣遣つた

「その事でござります、實は初瀬殿のお身の上に、一大事が起りました」

采女は昨日からの顛末を詳しく語つて

「その爲め、大矢田殿御苦勞、餘所の見る目もお不憫い程でござります」

「さうでは」と芳野は悲哀の目を睜つた

「お助け下さりませ、わたくしは初瀬殿のお命がお助け申したうござります」

「助けねばなりません、初瀬どのに犬死させて、濟むものでござりますか」と芳野も睜つた目を潤ませたが、口惜しさうに身を慄はせて

「其については、お情無いは松尾殿のお心でござります、斯うまで思召す初瀬様のお心を、微塵も御推量遊ばされぬは、異に木竹でござりますな、自刄をもつて初瀬殿のお胸を突かうとなさるも同じ事でござりますな」

「お願ひでござります、初瀬様を助けて下さりませ、初瀬様を殺すも助けるも、松尾様のお心一つでござります」

采女は芳野の袖に縋つた、芳野はじつと考へる

清之丞さへ我を折つて、元の戀に復つてくれたら、初瀬の命は取り止め得られる、初瀬とその身とを美知姫に付き添つて、福島家の殿に仕へるのは、普通の御奉公では無く、そこに云ひ難い事情が秘んで居る、清洲での幾年間、人目の關を忍びしのんで、命けられた事を果したのも、初瀬といふ相棒があつたからである。此後の幾年も、また同じ奉公に身を委ねばならぬ、そこに初瀬の扶けなくば、一人の力では及びもない、初瀬を失ふは我が片腕を失ふも同じである、我が片腕を失ふは、内府様奥殿への通ひ路が、半分絶ゆるも同じである

二人が心を合せても、兎もすると脆瀬の多い秘密の御用が、我身一つの手で成し遂げられる筈はない、初瀬殿を助けるは奉公の道を全うする手術である、その初瀬殿の命は清之亟が握つて居る、戀の意地に眼が眩んで、肝腎の御奉公はお忘れなされた、靄い女の身の上様れや

「助けねばならん〳〵」と芳野は心に強く思つて

「御安心なされませ、わたしの力で協はぬ事は、奥方様のお詞を借りる迄もござります、助けずに置きませうか、初瀬どのはわたくしの身でござります」

「有り難うござります、初瀬どの助からずば大矢田様も助かりませぬ、現に御病氣と御披露なされて、今日も御登城はござりませぬ」

「助左衛門殿の意地も、清之亟殿のお心が元へ復れば自然に立ちます、わたしにお任せなされませ、お前に泣かす事は致しませぬ」

芳野は身に替へても、初瀬の戀を協へさせずばなるまいと思つた

「序にお願ひ、お廣敷へお口添へなされませ、大矢田様のお手の衆が、お筆の在所を聞き合せに參ります、お筆の手には初瀬殿がお在でなさる、お筆の在所が分明したら、大矢田様の大太刀が、すぐそれへ飛んで行きます」

「それも心得、萬事昧好う致しませう、然し、此の事は誰へも無言、御家來衆へも内分に爲さらねばなりませぬ」

二人は領き合つて別れた、誰も聞くまいと思つた局の庭に、浮橋の部屋子が、剪花を持つて立つて居たのを、芳野も、采女も氣付かなかつた

技術紹介（山秋）

京城本町　千代田寫眞舘

### △黎明俳句會撰句

（大正六年十二月一日七川山根町蓬萊舍にて）

『落葉』『ストーブ』『雜』

落葉かく鮮盃五十風荒ぶ　秀
山寺の階上階下落葉積む　同
ストーブの會議臨ふ吹雪哉　同
裏山に狐出てなく月夜哉　同
蹴りあぐるボールの音や近き冬　同
街央で籠に止まる霜の朝　江
寒月や野原を歩む人一人　同
かさこそと落葉飛びゆく夜寒哉　同
風や障子の紙の破れかな　同
星一つ北に流るゝ夜寒哉　月
寒月や破れ格子に猫の入る　同
からくと下駄音寒しこたつ哉　同
がさくと落葉を踏むや夢の鐘　同
落葉一つ拾ふて何か思ひ入る　路の
落葉かく音のかすけし冬の午後　同
落葉の一つ一つに霜光る　同
ストーブの音聞いてゐる夜寒哉　同
いろり火のあるか無きかの寒さ哉　樓

## 炭の使ひ方

櫟丸、堅炭、土釜を適宜に按配して使ふと

此冬位炭の高い事は未だ曾てない此高い炭を毎日使はなくてはならぬのですから、其使ひ方は大に研究しなくてはなりません、其日暮しで炭を僅かづゝ小買する人は別として多少でも炭の

◇買置き が出來る人は此際三種以上の炭を一時に買つて置いて之を併用すると頗る經濟です、櫟丸、堅炭、土釜を一緒に買つて置き煮物をする場合には堅炭を用ゐ、客用及びいけ込みには櫟丸を用ゐ、大急ぎで湯を沸かすと云つた場合に土釜を使ふと云つた遣り方をするのです、堅炭は高くとも最も上等なものを買ふに限ります安物はおこるまでに時間を要し、おこつても火力が弱いから結局不經濟です

◇土釜は 成るべく軟かいものを買ふ事です。櫻炭は客用といけ込み以外に使ふのは不經濟です、更に一層併用を旨くしようとなれば土釜三分堅炭七分を爐鐺に入れて煮物の火にすると最初から火力が強く炭も經濟です、いけ込みに堅炭と櫟丸とを半々に入れて置くのも徳です。それからコンナに炭の高い時には消炭を大切にする事で完全な火消壺を設け熾きは常に之に入れるやうにして居れば普通の家庭でも一箇年に彼是

◇一俵近い 消炭を得られます、火消壺は最も完全なものを用ゐなくてはなりません、都合の火事（過失出火）の百分の七は火消壺から起るのだとは統計の示す所ですから充分注意が必要です、手焙用の火鉢には炭團か煉炭をいけ込んで置くのが最も經濟的です

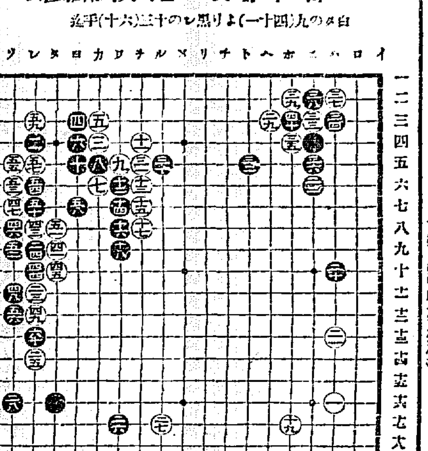
### 新刊紹介

△短歌雜誌（勅題詠進準備號）尾山篤二郎、西村陽吉氏等によつて出さるゝ本誌は新裝の十二月號を出した表紙は北原白秋の『花榊の葉』といふ凝つた潔り方口繪には御歌所々長入江爲守氏の『雨邊の松』附錄として同寄人大口鯛二氏寄の詠進歌の雛形が添へられ、内容として勅題の取材範圍及び詠進者の心得（大口鯛二）撰進歌の新舊の別なし（井上通泰）詠進者の資格（千葉胤明）その他御歌所寄人參候の人々の談を掲げ、尚丁寧親切な『詠進の書式』の紹介があり、御題例歌及び類句集、附明治詠進歌集をまで加へて居る、極めて好く行きといた詠進準備號を成した事である何は女流歌人十五人集『最近歌集』相互許の如き、實に豐富な内容が盛られたものである、此書を紹介して江湖に推す（定價二十二錢、東京日本橋區檜物町九東雲堂）

## 圍棊手合（三）

三段 山平壽氏　二子 大久保雅彦氏

白ダの九（四十一）より黒レの十三（六十）迄



黒四二は二の三継く

しんぞう　病の良薬なり　二錢切手封入申込めれ説明書無代進呈　播磨明石和生町　岡井呉服店

萬病感應丸　登録商標　目まい 立くらみ 腹いた　急病、流行病の特効薬　大阪 本舗 正野法橋玄三 江州　發賣店は全國有名藥店

醇良清酒

大阪府堺市　釀造發賣元 [illegible]家源次郎　京城本町一丁目（電話長二九番）特約販賣店 佐藤牧太郎

義手足　せきずゐコルセット　大きん玉ナラス器械

京城本町一丁目五一　高野義手足製作所　電話一〇六　新案輕便睾丸釣發賣

最新刊

| 書名 | 著者 | 定價 |
|---|---|---|
| 愛山文集 | 故山路愛山 | 五、〇〇 |
| 露西亞に遊びて | 大庭柯公 | 二、〇〇 |
| 大正六年朝鮮經濟年鑑 | | 一、四〇 |
| 取引所論（上卷） | 藤山藤吉 | 一、五〇 |
| 刑法要綱 | 大場茂馬 | 二、九〇 |
| 英和化學工業語彙 | 大澤忠光 | 一、〇〇 |
| 國語のアクセント | 佐久間鼎 | 八五 |
| 五段鈴木爲次郎著 新式圍棊寶典 第一 | | 定價六十五錢 |
| 德富蘆花警句全集 | 村田勇 | 一、〇〇 |
| 世渡り上手 | 川崎海傳 | 六〇 |
| 新體美文手紙文庫 | 岩田 山村 | 一、二〇 |
| 秘密小説 惡魔の家 | 小原 | 一、二〇 |
| トルストイ傑作 | | 一、〇〇 |
| 朝鮮の冬と防寒法 | 矢野 | 三五 |

○大正七年當用、懐中其他日記及歳暮贈答最適品の文房具皮革類玩具ピンポンかるた等澤山取揃仕候

京城本町 大阪屋號書店

春待化粧（その三）

お忙しい中で美くしいお化粧の出來る

お顔に合ふ　レート粉おしろい

▼まあ…お上品で厶いますこと！
▼まあ…お美しう厶いますこと！

◇春のお仕度で お忙がしいでせう◇
然し、お身嗜みのお化粧は等閑には出來ません。それに此節は肌荒れのする時で、毛角白粉乘りが惡う厶いますので、一層、お忙しい中からお化粧に骨が折れる事で厶いませう

◇これは貴女の 御經驗が足らぬ故◇
で厶いますまいか。クレームレートを御存じですか。レート粉おしろいを御存じですかこれさへあれば、お忙しい中でも、手早くお化粧が出來てそして美くしう厶います。

◇先づ一分間で 美顏術が出來る上◇
一ご刷毛で上品な美くしいお化粧が出來上ります。と、申すばかりでは、あまり簡單で厶いますから、其譯をお話し致しませう。大抵この節は、お肌がイジケて居る時で厶いますから

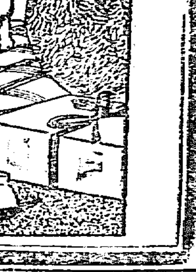
◇これを除いて お肌の地を整へる◇
のがクレームレートの効果で、皆に氣持よく、お肌を柔かに致しよく致します。で、最初クレームレートをお顔に擦り込んで置かれると、唯の一分間で美顔術が出來上ります。

◇それから一滴 濡手拭で拭きとり◇
その上へ、レート粉おしろい、を粉刷きなさいますと。分子の微細かい、レート粉おしろいが、お肌へ吸收されて、ボーッと白く、何とも云へぬ上品な美くしいお化粧が出來上ります。

◇粉刷き化粧は 家庭や外出に最も◇
簡單なもので、殊にレート粉おしろいの粉刷きはお化粧崩れがせず、寒風に當つても肌荒れが致しませぬから此節のお化粧に。これ程重寶で、美粧に適つたものは厶いません何處のお化粧通に聞いて御覧になつてもクレームレートを引いた上へ、レート粉おしろいの粉刷き程、便利で美くしいものはないと申されるで厶いませう。

化粧料本舗　東京　平尾贊平

新荷著　懐中時計



[illegible]

イングレッソール商會　京城本町二丁目　電話九七二番

急告　近來御同業者の中に弊社の名を騙り葬儀用品を請負ひ候向も有之候に付き…御用命の節は直接弊社へ御照會相成度候　京城葬儀社　電話一五六七番

間自動車著發時刻　金泉發・榮州發 …　織居自動車部金泉支部

日本郵船鎭南浦出帆　相模丸 十二月十一日 / 高砂丸 十二月十二日 / 三河丸 十二月廿一日　正午出　仁川代理店 郵船回漕部

共同汽船仁川出帆　共同丸 十二月九日午後八時 / 十二月十日午後二時出　阿波共同汽船株式會社 本町四丁目（電話一七三番）　仁川代理店 野口商會

釜山出帆廣告
汽船 門司、神戸、大阪行　和歌浦丸 十二月十三日午後五時出 / 立神丸 十二月十二日午後五時出
元山、淸津、浦鹽行　和歌浦丸 十二月十二日午後四時出 / 立神丸 十二月十二日午後十時出
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行　大興丸 毎月二日九日十六日廿三日（十四日）午後十時出帆
元山、西湖、新浦、城津、淸津行　第三琴平丸 月 日後六時出
門司、宇品、神戸、大阪行　第三琴平丸 月 日後六時出
本船取扱店 釜山本町 大池回漕部

朝鮮郵船出帆
閑門より釜山各地經由雄基行　第二商運丸 十二月廿五日　成鏡丸 十二月十日　京畿丸 十二月十五日　忠清丸 十二月二十日　釜山發
元山より北鮮各地經由雄基行　穩城丸 十二月十日　鏡城丸 十二月十四日　三浦丸 十二月十九日　咸鏡丸 十二月二十三日　京畿丸 十二月二十八日　元山發
浦鹽行　平壤丸 十二月十一日 元山發
元山より釜山間門行　三浦丸 十二月十五日　京畿丸 十二月廿六日 元山發
元山より羅原道寄港釜山間門行　成鏡丸 十二月廿一日　忠清丸 十二月十一日 元山發
鬱陵島行浦項及各地經由　巻徳丸 十二月八日 釜山發
浦項行　江陵丸 毎日　襄陽丸 釜山發
濟州島行長承浦麗水巨文島經由　昌平丸 十二月十二日 釜山發
釜山、麗水、巨濟　海州丸 統營丸 毎日 釜山發
濟州島行　公州丸 十二月十六日　慶興丸 十二月十一日 木浦發
木浦鹿水山　天安丸 三日目毎に 木浦發
仁川ヨリ浦行　晉州丸 十二月十七日　麗水丸 十二月十一日 仁川發
木浦ヨリ多島海各島行　慶興丸 十二月十三日 木浦發
仁川鎭南浦行（海州其他各地經由）　宗信丸 十二月十一日 仁川發
海州行（江華島喬桐島經由）　全州丸 南陽丸 休航 毎日 仁川發
青島行（大連經由）　江原丸 十二月十七日 仁川發
京城南大門通 松原運送店　仁川港代理店　元山港代理店　木浦港代理店　釜山港佐藤町 釜山支店
朝鮮郵船 出帆

大阪商船仁川出帆
南浦、神戸、大阪行　漳州丸 月 日後五時出
群山、神戸、大阪行　信濃丸 月 日後二時出
木浦、釜山、門司、下關行　安東丸 十二月五日後二時出
鎭南浦、大連行　安東丸 十二月十七日後二時出
西湖津行　宮島丸 十二月四日後十時出
安平丸 月 日後十一時出
上海、芝罘、打狗行（大連經由）　基隆丸 湖北丸 十二月四日後六時出
御注意 大阪商船仁川支店

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行　秀吉丸 十二月十一日後四時出 / 大有丸 十二月十八日後四時出 / 神代丸 十二月十三日後四時出 / 君が代丸 十二月五日後四時出
仁川 尼崎汽船回漕部

●銀行當期成績
入り大に増加するに至りたり然る 前述の如くなるを以て下半期全體 乘じて營業を擴大し其間に利益を ざるも金融取引を膨大せる割合に 増加するに困難の地位に立てり日成績良好なるも前者は年賦貸付…

懸賞 新年文藝 募集
▼謎「門松とかけて」
賞品 各題に付▲一等一圓（一人）▲二等五十錢宛（二人）